

産学連携フェア

平成23年10月19日(水)~21日(金)

会場:北九州学術研究都市(北九州市若松区ひびきの)

北九州学術研究都市10周年記念

知と技術の融合
"新"社会システムへの挑戦
九州から世界へ

報 告 書



Product of オキモト ユウスケ (tonica)

主催 北九州学術研究都市 産学連携フェア実行委員会、財団法人北九州産業学術推進機構(FAIS)

後援 社団法人九州経済連合会、社団法人北九州中小企業団体連合会、九州電力株式会社北九州支社、日本経済新聞社西部支社、野村證券株式会社、株式会社日本政策投資銀行、福岡ひびき信用金庫、株式会社西日本シティ銀行、株式会社福岡銀行、株式会社北九州銀行、株式会社みずほ銀行、学術研究都市ファンクラブ「ひびきの会」、九州北部学術研究都市整備構想推進協議会(アジアス九州)、九州地域産学官連携推進会議、九州半導体・エレクトロニクスイノベーション協議会、九州地域環境リサイクル産業交流プラザ(K-RIP)、九州地域バイオクラスター推進協議会、九州イノベーション創出促進協議会、ロボット産業振興会議、福岡ナノテク推進会議、AIR STATION HIBIKI 88.2MHz

お問い合わせ先

財団法人北九州産業学術推進機構 産学連携統括センター

TEL.093-695-3006 FAX.093-695-3018

URL <http://fair.ksrp.or.jp/>

産学連携 フェア



北九州学術研究都市10周年記念

知と技術の融合
"新"社会システムへの挑戦
九州から世界へ

報 告 書

C O N T E N T S
目 次

■ 総 括	02
■ 記念講演	05
■ アンケート結果	07
■ セミナー及びシンポジウム	19
■ 展示会	27
■ 見学ツアー	30
■ 実証実験	31
■ 同時開催	32
■ 広報・宣伝活動	33

結果報告 総括

【会期】 平成23年10月19日(水)～21日(金)

【会場】 北九州学術研究都市 [北九州市若松区ひびきの]

【主催】 北九州学術研究都市産学連携フェア実行委員会
財団法人北九州産業学術推進機構(FAIS)

開催趣旨

地域の大学・企業などの研究成果・活動内容を広く紹介し、産と学の交流の場を提供することで、産学連携を強力に推進していくとともに、付加価値の高い新技術・新産業が次々と生まれてくるような地域のクラスターの形成に繋げていくことを目的に開催するもの。

来場者総数

記念式典	記念講演	セミナー等	展示会	見学ツアー
400名	320名	1,426名	4,116名	86名
実証実験	交流パーティ	同時開催	合 計	
491名	196名	1,074名	8,109名	

北九州学術研究都市10周年記念事業

内 容	期 日 ・ 場 所 ・ 主 催
記念式典(会議場)	
■式 詞 北九州市長 (財)北九州産業学術推進機構 理事長	北橋 健治 國武 豊喜
■来賓祝辞 福岡県副知事 文部科学大臣 政務官 九州経済産業局 局長 北九州商工会議所 会頭 北九州市議会 議長	服部誠太郎 氏 城井 崇 氏 滝本 徹 氏 利島 康司 氏 佐々木健五 氏
■特別講演 元文部大臣、武藏学園長	有馬 朗人 氏
北京大学・北九州市・(財)北九州産業学術推進機構調印式(会議場)	
■挨 捧 北京大学 校長補佐	朱 星 氏
■祝 辞 早稲田大学 副総長	橋本 周司 氏
レセプション(会議場イベントホール)	
■開会挨拶 北九州市 顧問	阿南 惟正
■祝 辞 九州工業大学 学長 北九州市立大学 学長	松永 守央 氏 近藤 優明 氏
■乾 杯 衆議院議員	緒方林太郎 氏
■閉会挨拶 北九州商工会議所 副会頭	竹澤 靖之 氏
記念講演(会議場)	
■記念講演 内閣府 総合科学技術会議 議員 「第4期科学技術基本計画と 我が国のイノベーション創出」	奥村 直樹 氏

セミナー & シンポジウム

10月19日[水]

セミナーテーマ	実施機関	会 場	来場者数
「先端工コフィッティング技術研究開発センター」ワークショップ ～エコフィッティング・インデックスで示す技術インパクト	九州工業大学 先端工コフィッティング技術研究開発センター	中会議室 1	60
動き出したパワーエレクトロニクス研究 ～研究拠点を目指して～	財団法人 国際東アジア研究センター (ICSEAD)	中会議室 2	66
バイオインフォマティクスと臨床研究の融合事例を通じて ライフサイエンスとバイオツールの協奏を目指す	財団法人北九州産業学術推進機構 産学連携統括センター	学術情報センター 遠隔講義室 1	78

10月20日[木]

セミナーテーマ	実施機関	会 場	来場者数
マイクロ波技術が化学を変える	九州工業大学 大学院情報工学研究院、 日本電磁波エネルギー応用学会 (JEMEA)	研修室	60
ものづくり力向上 IT化セミナー ～画期的な製造業の生産管理 IT化と現場入力作業の革命～	独立行政法人 産業技術総合研究所	中会議室 1	51
システムLSI産学連携研究成果	早稲田大学大学院情報生産システム研究科 システムLSI分野	中会議室 2	33
日台環境ビジネスセミナー ～日本と台湾の太陽電池の新時代～	財団法人北九州産業学術推進機構、台北駐日經濟文化代表處	学術情報センター 遠隔講義室 1	77
エネルギーと環境に資するナノ触媒	公益社団法人石油学会 九州・沖縄支部	研修室	102
ふくおかIST「IST 産学官事業」成果発表会	財団法人福岡県産業・科学技術振興財団(ふくおかIST)	中会議室 1	57
「経営に活かそう知的財産! 発想の転換でニュービジネス創出」 ～中小企業知的財産戦略セミナー～	九州知的財産戦略協議会 (九州経済産業局/北九州市/財団法人北九州産業学術推進機構)	中会議室 1	43
CAEを活用したものづくり力向上	福岡県工業技術センター機械電子研究所、 福岡県工業技術センタークラブ機械電子技術部会	中会議室 2	47
工業炉業界の現状と今後の展望	福岡県工業技術センター機械電子研究所、 異業種交流グループ ヒットエッグ	中会議室 2	30
北九州発！新たな水ビジネスの展開について	財団法人北九州産業学術推進機構 産学連携統括センター (共催:アジア低炭素化センター 後援:北九州市建設局)	学術情報センター 遠隔講義室 1	142

10月21日[金]

セミナーテーマ	実施機関	会 場	来場者数
北九州発！新技術・新製品と先端研究シーズを紹介	財団法人北九州産業学術推進機構 産学連携統括センター	研修室	49
北九州発の新たなバイオマス資源利活用の新展開	北九州市立大学国際環境工学部	中会議室 1	54
デジタルエンジニアリングによるものづくり技術の紹介	西日本工業大学	中会議室 2	40
医療分野(現場)で活躍するRT技術	ふくおかロボット技術研究会、北九州ロボットフォーラム	学術情報センター 遠隔講義室 1	55
JASVA Day 九州 2011 環境の新時代を創出する省エネ半導体～パワーデバイスの無限大の可能性～	社団法人日本半導体ベンチャー協会 (後援:財団法人北九州産業学術推進機構、 カーネギー・エレクトロニクスセンター、半導体技術センター)	研修室	80
医療技術への工学の応用 (第51回北九州医工学者会議)	北九州医工学者協会	中会議室 1	55
腸内環境改善と健康づくり	産業医科大学産業生態科学研究所健康予防食科学研究室	中会議室 1	62
LED 照明の安全規格	福岡県工業技術センター機械電子研究所、 ひびきの LED アプリケーション創出協議会	中会議室 2	57
次世代自動車向け表面処理技術の最前線	福岡県工業技術センター機械電子研究所、 福岡県工業技術センタークラブ機械電子技術部会	中会議室 2	63
消防活動の安全を支える技術	北九州市立大学 環境・消防技術開発センター	学術情報センター 遠隔講義室 1	65

展示会

【環境・バイオ関連】 /26 小間

- 1 TOTO株式会社 電子機器研究開発G
 - 2 TOTO株式会社 衛陶技術部
 - 3 TOTO株式会社 環境建材事業部
 - 4 新日鐵化学株式会社 研究所(戸畠地区)
 - 5 北九州熱電発電研究会
 - 6 福岡バイオバレー プロジェクト(久留米リサーチ・パーク)
 - 7 九州工業大学 生命体工学研究科 機械系研究室
 - 8 九州工業大学 大学院情報工学研究院
九州工業大学 環境マネジメントセンター
日本電磁波エネルギー応用学会(JEMEA)
 - 9 九州工業大学 環境マネジメントセンター
 - 10 三菱化学株式会社 黒崎事業所
 - 11 株式会社昭和テックス
 - 12 クランフィールド大学北九州共同研究オフィス
 - 13 産業医科大学 医学部 リハビリテーション医学講座
 - 14 産業医科大学 産業生態科学研究所 産業保健管理学研究室
 - 15 九州歯科大学 口腔診断学講座画像診断学分野
 - 16 福岡大学 北九州産学連携推進室
 - 17 産業医科大学 産業生態科学研究所
健康予防食科学研究室
 - 18 産業医科大学 産学連携・知的財産本部
 - 19 創造企画合同会社
 - 20 日本ナショナルインスツルメンツ株式会社
 - 21 北九州市立大学 環境・消防技術開発センター
 - 22 北九州市立大学 國際環境工学部
上江洲・森田・河野研究室
 - 23 財団法人福岡県環境保全公社リサイクル総合研究センター
 - 24 シャボン玉石けん株式会社
 - 25 北九州市立大学国際環境工学部 建築・都市低炭素化技術
開発センター
 - 26 北九州市環境局

〔半導体・情報アプリケーション〕 /16 小間

- 27 ヒロコン株式会社
28 株式会社ヴァインテージ・プロダクションズ&コンサルティング
29 大日本印刷株式会社 電子モジュール開発センター
30 株式会社シノハノハイテック
31 北京大学・早稲田大学
32 早稲田大学大学院 情報生産システム研究科
生産システム分野
33 早稲田大学大学院 情報生産システム研究科
システムLSI分野
34 近畿大学 産業理工学部 空間デザイン研究室
35 財団法人北九州産業学術推進機構 半導体技術センター
36 ひびきのLEDアプリケーション創出協議会
37 吉川工業株式会社 株式会社吉川システム
吉川アーバンエフシステム株式会社
38 株式会社東芝 セミコンダクター＆ストレージ社 北九州工場
39 株式会社東芝 セミコンダクター＆ストレージ社 北九州工場
40 ひびきのLEDアプリケーション創出協議会
41 株式会社プラテック
42 株式会社アドバンステスト

【产学研連携支援関連】 /17 小間

- 56 財団法人福岡県産業・科学技術振興財团(ふくおかIST)
 - 57 財団法人福岡県産業・科学技術振興財团(ふくおかIST)
 - 58 独立行政法人 産業技術総合研究所 九州センター
 - 59 九州職業能力開発大学校 建築系岩下研究室
 - 59 九州職業能力開発大学校 生産システム技術系
 - 60 野村證券株式会社
 - 61 福岡ひびき信用金庫
 - 62 株式会社福岡銀行
 - 63 株式会社西日本シティ銀行
 - 64 福岡県工業技術センター機械電子研究所
福岡県工業技術センタークラフ機械電子技術部会
 - 65 北九州イノベーションギャラリー
 - 66 日本経済新聞社
 - 67 財団法人北九州産業学術推進機構 産学連携部
知的クラスター担当課
 - 68 財団法人北九州産業学術推進機構(北九州TLO)
 - 69 財団法人北九州産業学術推進機構
北九州知的所有権センター
 - 70 九州経済産業局特許室／九州知的財産戦略センター
 - 71 早稲田大学大学院 情報生産システム研究科
 - 72 北九州市立大学 地域産業支援センター

【自動車・ロボット関連】 / 13 小間

- 43 財団法人北九州産業学術推進機構
 - カー・エレクトロニクスセンター
 - 44 九州工業大学大学院 生命体工学研究科 石井研究室
 - 45 RoboPlus ひびきの株式会社
 - 46 株式会社安川電機
 - 47 長菱エンジニアリング株式会社
 - 48 北九州ロボットフォーラム 財団法人北九州産業学術推進機構
 - 49 北九州高専 久池井研究室
 - 50 北九州高専 滝本研究室
 - 51 北九州市立大学 國際環境工学部 山本郁夫研究室
 - 52 株式会社ふるさとカンパニー
 - 53 早稲田大学大学院情報生産システム研究科
　　情報アーキテクチャ分野
 - 54 西日本工業大学
 - 55 九州工業大学 森江・神酒・石川研究室

【水処理・水ビジネス関連】 /4 小間

- 73 北九州市立大学戦略的水・資源循環リーダー育成事業
 - 74 北九州市立大学国際環境工学部 楠田・門上・石川・安井
4研究室(水環境分野)
 - 75 アジア低炭素化センター
 - 76 株式会社セバシグマ

10月19日(水)	10月20日(木)	10月21日(金)
1,470名	1,097名	1,549名
合計		4,116名

見学ツアー

●平成23年10月20日(木)・21日(金)

学研都市 見学ツアー	WATER TOUR (北九州発、水“新”発見ツアー) 見学ツアー	ラボ見学ツアー
11名	20名	55名

交流パーティ

113名

●平成23年10月19日(水)
会場:北九州学術研究都市 カフェテリア

交流パーティ(チャリティ形式)



全体配置図



結果報告 記念講演

【テーマ】「第4期科学技術基本計画と我が国のイノベーション創出」

講師

内閣府 総合科学技術会議 議員
(元新日本製鐵株式会社 代表取締役副社長)

奥村 直樹 氏

「経歴」

生年月日 昭和20年6月29日

昭和48年3月	東京大学大学院博士課程(応用物理学)修了
同4月	新日本製鐵株式会社入社
54年3月	Imperial College(英)客員研究員(～昭和56年3月)
平成元年6月	同社中央研究本部第1技術研究所 機能材料応用研究部長
5年6月	同社技術開発本部先端技術研究所新材料研究部長
7年6月	同社技術開発本部先端技術研究所所長
11年4月	同社参与、技術開発本部鉄鋼研究所所長
同6月	同社取締役、技術開発本部鉄鋼研究所所長
15年4月	同社常務取締役、技術開発本部鉄鋼研究所所長
17年4月	同社代表取締役副社長、技術開発本部長
19年1月	総合科学技術会議議員(常勤)
現職	総合科学技術会議議員(常勤)



講演趣旨

北九州学術研究都市10周年、誠におめでとうございます。こういう大きな節目にお話をさせていただく機会をいただき、大変光栄に思います。本日、「第4期科学技術基本計画と我が国のイノベーション創出」についてお話をさせていただきます。

前半で、2ヶ月前の8月19日に閣議決定された「第4期科学技術基本計画」の概要をご紹介します。

科学技術基本計画は、平成7年にできた科学技術基本法という法律に基づいて策定されております。科学技術基本法の中に、政府は計画を立て予算を準備する必要があると規定し、1期計画を5年間ずつ過去15年間3期に渡って実行しました。今年から始まるのが第4期で、向こう5年間この計画に沿って政策を推進していきます。

まず、1期から3期までの15年間の実績としては、政府は日本の科学技術政策に60兆円を投入し、科学技術基本法に基づいて、それまで政策および推進体制が不十分であった部分を整えるべく、主要な政策を打ってきました。特に2期から3期に渡っては、特定の技術分野(バイオ、情報通信、ナノ、材料などを含めた8つの分野)を決めてそこに重点的に研究費を投入するという政策をとりました。

この第4期では、こういった「重点分野」という方式から、「課題解決型」へ転換しています。これが第4期計画の大きな特徴です。基礎研究についても、個々には立派な研究が出ているが、マクロ成果指標としての基礎研究は必ずしも国際的に強くはないのではないか、科学技術の進展が世の中、あるいは国民の課題解決に十分につながっていないのではないか、若手にとってみれば、なかなか将来を展望しにくくなっているのではないか、等々といった課題に、私どもは、よりきちんと目を向けていく必要があるということが、大きな政策転換の要因になっています。

世界各国の科学技術政策をみると、4期計画と同様にどちらかといふと特定分野の科学技術を推進するという考え方から、政策的な課題、社会的な課題に科学技術をどのように導入し、有効に機能させるかという課題解決型の方向に大きく変わっています。

3月11日に大震災がおこり、計画案の見直しも行いました。課題解決型との見方は変わっていませんが、新たに復興・再生並びに、災害からの安全性向上に向けた重点化の柱を1本立てました。また原子力の発電関係をどう取り扱うのか、科学技術に関するリテラシーを、国民との対話にどのように活かしていくのかという課題も新たに重要との認識を持っています。

4期計画の大きな特徴は、従来の科学技術よりも政策対象を広げ、科学技術イノベーション政策の一体的展開という点にあります。これまで基礎研究や人材育成が大事であるとして、それなりの資金を投じてきましたが、今回の計画では特出して、その重要性を強調しています。日本の課題解決あるいは成長を駆動するのは、基礎研究の発展、あるいはそれを担う人材の育成を除いて他にないという考え方です。

投資についてですが、官民合わせてGDPの3.6%～3.7%位の研究費を投入しています。年間に約18兆円です。ヨーロッパの人口の少ない国ではいくつか例がありますが、日本のような大国で3%以上という数字は極めて高い数字です。そのうち政府の投資は0.6～0.7%位ですが、これを約1%になることを目指します。現在は年間4兆円を投入していますが、今後は5兆円位を投入していくのが目標です。

次に、イノベーション政策に関する政府の考えについて触れたいと思います。欧米の有名な企業の中には新しい研究開発モデルとして、自前で研究開発機能を持たずに、社外のさまざまな知恵を融合することによって新たな製品を開発しています。そういった企業が1社のみならず、かなりの成功事例が出てきています。日本の中央研究所中心主義というものに対する問題提起が、多くの人に認識されています。日本の製造業の大企業は垂直統合型研究開発モデルをとるところが多いのですが、これだけでは世界の変化、市場の変化に対応できないという課題認識のもとに、オープンイノベーションを基本の考え方として取り入れるべきだと考えています。

成功している企業はなぜ成功しているのか。いろいろな要素がありますが、技術的に変化の激しい技術領域で成功している例が多いと思われ

ます。変化に対応していくために、何から何まで自分で、あるいは垂直統合型で独自に研究開発を進めていくと、極めて時間もかかるし効率がよくないので、このようなモデルがとられたと思います。そうした変化の激しい領域で成功している企業のマネジメント等は、大いに参考にする必要があります。

地域活性化の問題、これも非常に大きな、重要な課題です。北九州でも政府の研究支援制度を使ったクラスターが展開されていると思います。地域のイノベーションシステムをどうするのかということも、重要な問題であると認識しています。私が見るところ、上手く運営されているクラスターは、何らかの強みを持っています。地域の財産、特に知政学的な資産が大きな財産になっていると思われます。

様々な規制緩和の問題もあります。研究開発を進めていく上で、研究開発の新成果は過去に事例がないわけですので、実用化には様々な制度なり法律なり規制に抵触することがありえるわけです。これをどうクリアしていくかが課題で、解決には政治の力も必要です。逆にその規制を使って研究開発の促進を図れないかということも取組の視点として挙げています。また、規制緩和については特区制度がありますが、これを積極的に活用することによって新たな研究開発の展開が見えてくると思います。

4期計画の概要とイノベーション政策に関する話に触れましたが、この新計画では3期計画の重点研究8分野から研究開発の推進方法を、社会的な課題解決に結びつけるという方向に転換したわけです。この転換によって研究開発を実行する組織についてはいろいろと議論がありますが、各府省、あるいは予算元の組織の役割ということがより大きくなるのではないかと考えています。政策立案あるいは政策推進組織の役割について、今は各府省と議論しているところです。

人材育成については21世紀COE、グローバルCOEなどの政策が打たれ、大型プロジェクトについても基礎研究から応用研究までいろいろとされています。例えば、1件当たり300億円を超えるプロジェクトは、スーパーコンピューター等を含めて40くらい推進していますし、基礎研究の世界トップレベル拠点WPIという事業も全国で6カ所あります。確かに、九州地区には九州大学に水素研究の拠点があるかと思いますが、6カ所合計で1000億円以上をすでに投入しています。

自民党政権の時にできたのですが、30人の中心研究者に制度的に使いやすい研究資金を渡して、世界トップの業績を期待する事業ということで、総額1100億円を投じて中心研究者に対する研究資金を投入しています。その他、これまでに政策的にも様々な制度にかかる問題を取り扱ってきましたので、4期計画ではこれまで実行してきた政策の改善点は見直すということは当然として、実を取りにくくことを強く意識して実行する必要があると考えます。

アクションプランについて述べますと、今年は財務省への概算要求締切りは9月末日でしたが、その提出前に私どもが来年度の重点課題方針を出して、各府省が検討中の個別政策について事前に調整を行いました。府省と合意に至った施策については、その施策をアクションプランに認定するというやり方をしています。私どもの方針、考え方を各府省の政策誘導に使うということが趣旨の手段で、去年は試行でしたが、今年から本格的に本方式を採用しています。

個人的な意見であるということを予め申し上げて、以下、イノベーションについての考えをお話させていただきます。

イノベーション創出を二つの断面で見てみると、一つの断面は、当然バリューチェーンです。大学等の基礎研究をやっている部門の知恵を、どのように社会的なバリューに変えていくのか。ベンチャーのような創

業型と既存の企業との共同研究による業型がありますが、これをどう進めていくかが重要になります。もう一つの断面は、協創といいますか、合わせるべき対象の視点です。

これから先をどのようにしていくのかということは不可欠ですし、また多様な科学と技術の協創は特に重要であり、特に強調したいですね。オープンイノベーションでも、基本は自前主義だけではできないという限界から、多様な知を集めているわけです。しかし、残念なことに日本では科学と技術は違う、基礎と応用は違う、ハードとソフトは違う、あるいは理系・文系も違う、とにかく2項対立的に違いを強調する議論が極めて多い。これは決定的にイノベーション創出に阻害要因になっていると思います。もはや科学と技術は相補関係にあって、単独ではどちらも国際的に勝てないと認識すべきです。異分野が協調して仕事をしていく、これは日本が決定的に欠けている部分だと思います。大きな成果は異分野の人が力を合わせて作るのが、まさに今の時代であり、これから時代です。

地域イノベーションに触れますと、上手くいっているところは何らかの強みを活かしています。強みを全員が認識していると同時に、世界に目が向いています。このようなところをこれからも応援したいと思います。地産地消型では、今の時代に一つの産業として独立した地位を保つことは、規模の点で難しいと考えます。

1980年代と今は何が違うかというと、会社での研究成果がなかなか商品化に結びつかないというところです。リニアモデルが通用しないと同時に、単品の技術だけでは市場に浸透していない。いろいろな技術の組み合わせ、科学の知識を組み合わせて、顧客の課題解決に応えることが必要だと思います。大きく事業環境が変わり、それに伴って研究のあり方を変えなければなりません。研究開発のマネジメントをされる方は、大きな責任を背負っているのです。研究は専門性がないとできませんが、専門性、それは同時に見方を変えると保守的です。他方、イノベーションは革新です。専門性を活かしつつその相互矛盾をどのように克服していくのかが、研究開発のマネジメントをされる方の大いなる役割であり、責任だろうと思います。

創業型では、大学発ベンチャーが典型的な例ですが、政府の支援もあって今までに累計2000社余りきました。注目しているのは、上場を達成している1%相当の24社です。このような強く生き残っているところを、より太く強く支援するというのが私の考え方です。

イノベーションの創出については、もはや科学と技術は相補関係にあります。技術の高度化には様々な知恵の統合が必要です。どの技術が世界一とか、どこの企業が世界一という目に見える競争力だけを見ていてもこれらへの対策は立てられません。地味ですが、目に見えない水面下の競争力をどのように作っていくかがむしろ大事です。それを支えるのが基礎研究、人材育成です。

若い人たちを取り巻く環境も大きく変化しています。最近は日本の企業もグローバル採用と称して、他国の若い人を採用しています。その分、日本人の学生にとっては日本企業への就職が難しくなってきてています。やはり大学の教育は国際水準に持っていくことが必要です。

日本の大学院では、教育と研究とが別々に位置づけられていないという問題があります。教育は、学生が将来生き抜くための基礎力を与えるものであり、他方、研究は先生方の知的探求心に基づいて行うものです。教育では、専門知識だけでなく、幅広い知識も習得する必要があります。こういった基本的な教育を学生、大学院生にきちんと実行して、大学院教育が社会の信任を得ることが今後ますます重要になります。以上、長い時間お話をさせていただきました。ご聴聽ありがとうございました。



結果報告 来場者アンケート

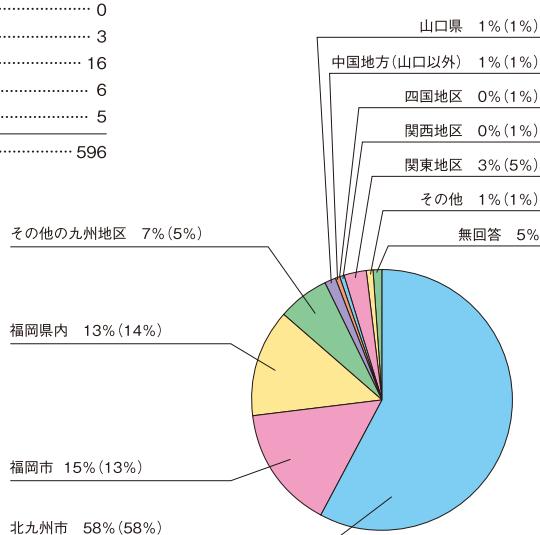
フェア期間中、会場、展示会場等において参加者へのアンケートを実施した。

回収枚数596枚を対象に集計

Q
1

どちらからご来場されましたか。

北九州市	345
福岡市	91
福岡県内	79
その他の九州地区	39
山口県	8
中国地方(山口以外)	4
四国地区	0
関西地区	3
関東地区	16
その他	6
無回答	5
計	596

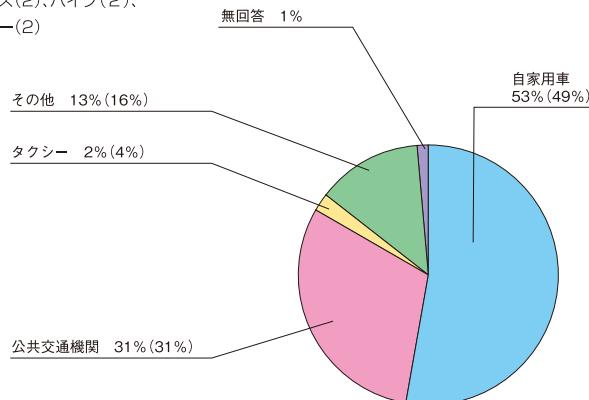


Q
2

会場への主たる交通手段は何ですか。

自家用車	316
公共交通機関	181
タクシー	13
その他	79
無回答	7
計	596

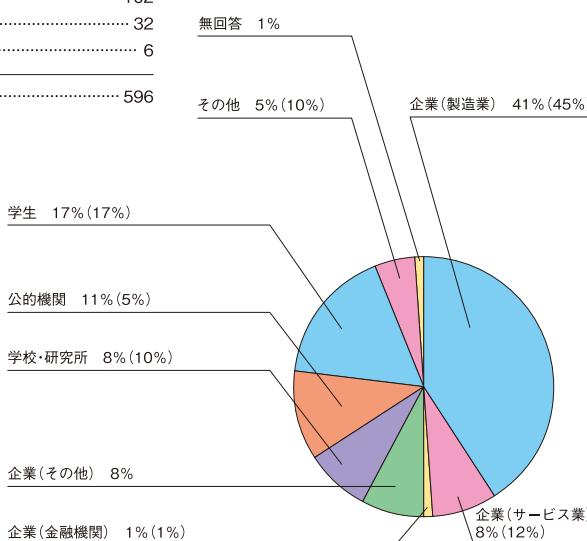
※()の数字は昨年度(第10回)実績です。 来場者



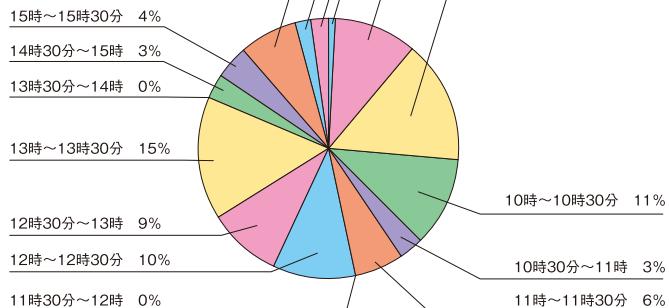
Q
3

あなたの業種は何ですか。

企業(製造業)	243
企業(サービス業)	49
企業(金融機関)	3
企業(その他)	48
学校・研究所	45
公的機関	68
学生	102
その他	32
無回答	6
計	596



8時～	2
9時～9時30分	28
9時30分～10時	39
10時～10時30分	30
10時30分～11時	7
11時～11時30分	17
11時30分～12時	1
12時～12時30分	28
12時30分～13時	25
13時～13時30分	40
13時30分～14時	1
14時～14時30分	9
14時30分～15時	11
15時～15時30分	20
15時30分～16時	5
16時～16時30分	5
計	268

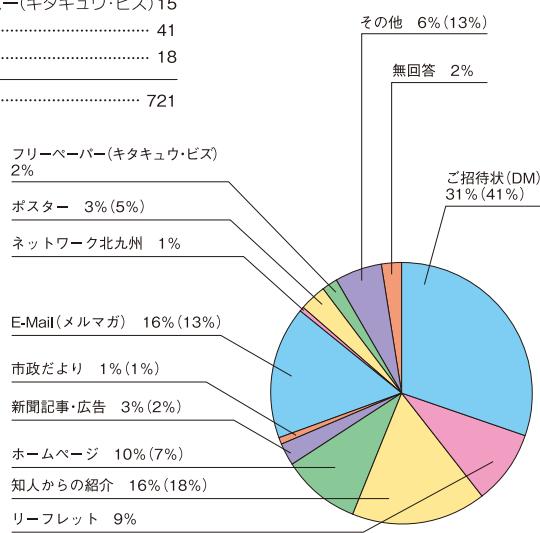


※()の数字は昨年度(第10回)実績です。来場者

Q
4

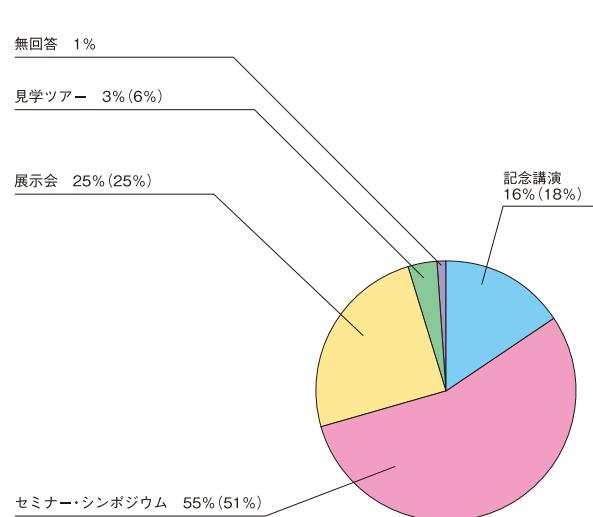
今回のフェアを何で知りましたか。(複数回答可)

ご招待状(DM)	220
リーフレット	66
知人からの紹介	119
ホームページ	71
新聞記事・広告	20
市政だより	5
E-Mail(メルマガ)	118
ネットワーク北九州	5
ポスター	23
フリーペーパー(キタキュウ・ビズ) 15	
その他	41
無回答	18
計	721

Q
5

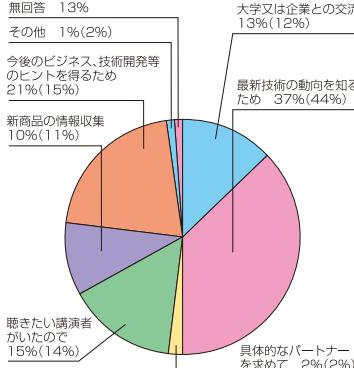
今回のフェアへの参加目的は何ですか。(複数回答可)

記念講演	139
セミナー・シンポジウム	487
展示会	220
見学ツアー	32
無回答	8
計	886

Q
6

どのようなことに期待して産学連携フェアに来られましたか。(複数回答可)

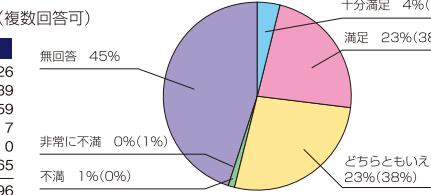
大学又は企業との交流	126
最新技術の動向を知るため	366
具体的なパートナーを求めて	25
聴きたい講演者がいたので	144
新商品の情報収集	98
今後のビジネス、技術開発等のヒントを得るため	202
その他	11
無回答	6
計	978



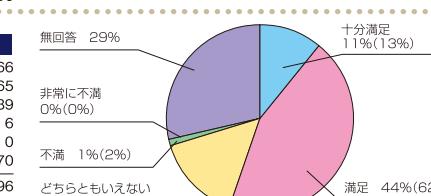
- 《その他》
- 産業連携の現場の雰囲気を知りたかった。
 - 特許を持っている大学側と商品化する企業に対して必要な計測データの提供提案
 - 展示会説明員
 - 業務効率
 - 講義の一環
 - 発表の補助

実際に参加されて、ご期待にこたえられたでしょうか。

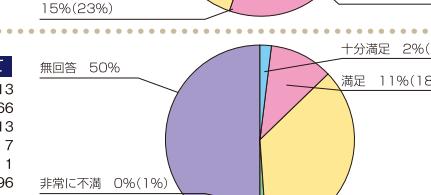
大学また企業との交流



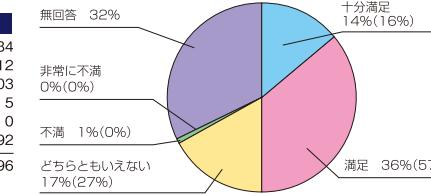
最新の技術動向の把握



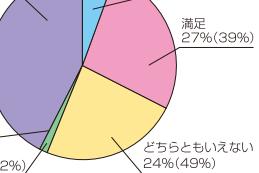
具体的なパートナーについて



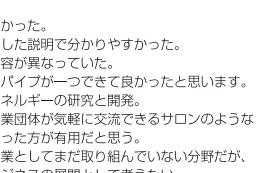
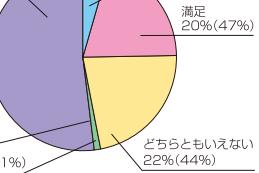
聞きたい講演者の話



新商品の情報収集



今後のビジネス、技術開発等のヒントについて



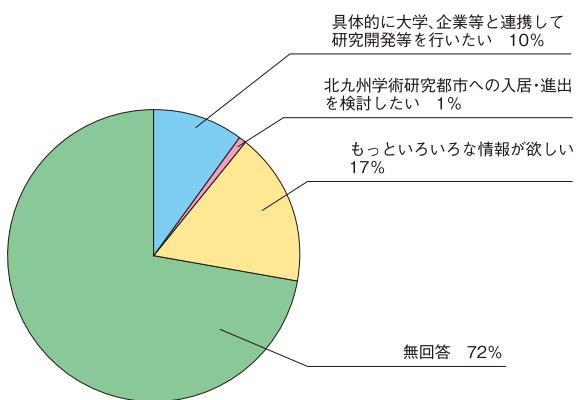
《ご意見》

- 会場が暑かった。
- 実務に則した説明で分かりやすかった。
- 題目と内容が異なっていた。
- 大学とのパイプが一つできて良かったと思います。
- 次世代エネルギーの研究と開発。
- 異業種企業団体が気軽に交流できるサロンのような場所があった方が有用だと思う。
- 会社の事業としてまだ取り組んでいない分野だが、新たなビジネスの展開として考えたい。

Q
7

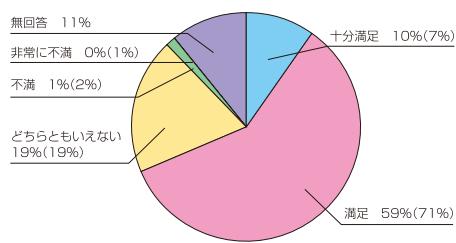
以下のご要望があればご記入ください。

具体的に大学、企業等と連携して研究開発等を行いたい	60
北九州学術研究都市への入居・進出を検討したい	6
もっといろいろな情報が欲しい	100
無回答	422
計	588

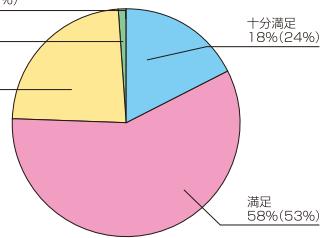
Q
8

産学連携フェアの感想をお聞かせください。

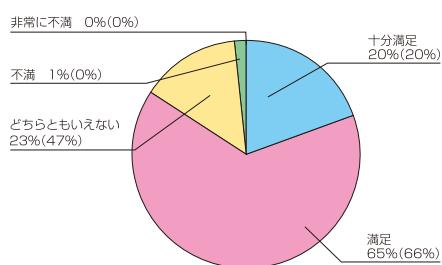
十分満足	58
満足	351
どちらともいえない	115
不満	8
非常に不満	1
無回答	63
計	596



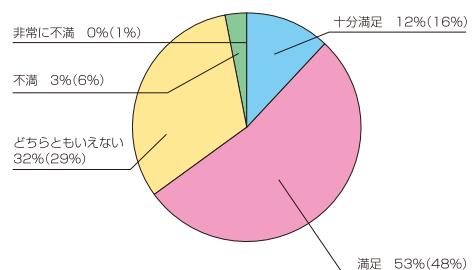
十分満足	40
満足	132
どちらともいえない	53
不満	2
非常に不満	0
計	227



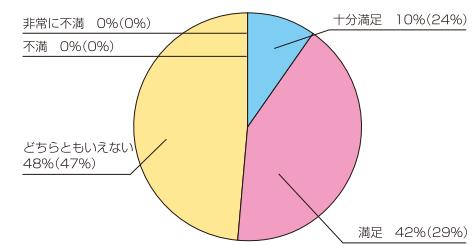
十分満足	94
満足	310
どちらともいえない	68
不満	6
非常に不満	1
計	479



展示会	35
十分満足	158
満足	96
どちらともいえない	8
不満	1
非常に不満	298



見学ツアー	12
十分満足	51
満足	59
どちらともいえない	0
不満	0
非常に不満	0
計	122



《ご意見》

- 展示会の人が少なすぎる。小倉の他の展示会とセットで実施してほしい。
- セミナーは説明内容に沿った資料やテキストが必要。
- 実証実験を見せてもらえるのはおもしろい。

Q
9

今後の産学連携フェア運営の参考とさせていただきますので 以下のご質問についてお聞かせください。

興味のある分野について (複数回答可)

環境	301
バイオ	157
エネルギー	258
半導体	157
情報アプリケーション	85
自動車	150
ロボット	120
水処理・水ビジネス関連	128
産学連携支援関連	89
その他	4
無回答	36
計	1485

《その他》

- 半導体スマートフォン
- 食
- ナノ材料
- 経済交流
- 航空宇宙物理学系
- 電気・物性
- 文科系の発想
- リサイクル
- パワーアクセスニクス
- 福祉関係
- LED
- 医療ガス、医療設備
- 栄養管理(食品・サプリメント)
- サービス産業
- 測定分野技術
- 電気・物性
- 材料加工表面処理技術が同じ。
最新よりも具体的な製品への展開。
- 医療機器(3)

無回答 2%

その他 0%

産学連携支援関連 6%

水処理・水ビジネス関連 9%

ロボット 8%

自動車 10%

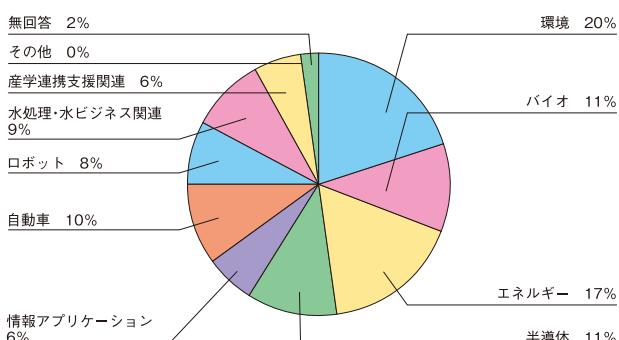
情報アプリケーション 6%

環境 20%

バイオ 11%

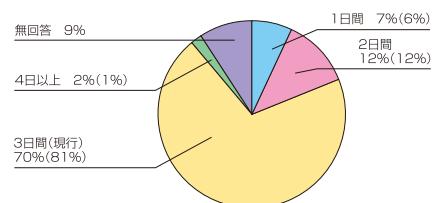
エネルギー 17%

半導体 11%



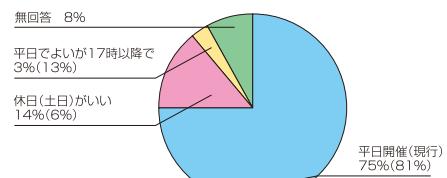
開催期間について

1日間	39
2日間	73
3日間(現行)	415
4日以上	13
無回答	56
計	596



開催日等について

平日開催(現行)	449
休日(土日)がいい	82
平日でよいが17時以降で	16
無回答	49
計	596



希望する講演の講師及びテーマについて

《テーマ》

- 新エネルギー
- 脳障害対策
- 標準化戦略
- 海外水事情関連
- 再生可能エネルギー分野
- 食品技術の最先端
- 新エネルギーでの実績
- MEMS
- IPS細胞
- 製造業の未来について
- 北九州に足りないもの。これから必要なもの。
- 若い世代の人々の未来と科学技術について
- 日本のエネルギー政策
- 有明海の取り組みについて
- 日本の今後の展開予測
- はやぶさの話
- イノベーション本市の進むべき道
- LED照明関連(2)

Q
10

北九州学術研究都市に対して 何を期待していますか。(複数回答可)

研究開発に対するサポート	258
優秀な人材(学生)の供給	181
技術指導	169
大学との交流	131
社会人教育	79
ベンチャー創出	98
その他	6
無回答	95
計	1017

《その他》

- 実のある活動
- 新情報の募集
- アジアの頭脳的役割
- 地域の活性化
- 新しい技術情報
- 海外との交流(アジアだけでなく)
- 最先端科学技術の追求
- 商品化と事業戦略、販売企画との連携

無回答 2%

その他 0%(1%)

ベンチャー創出 10%(12%)

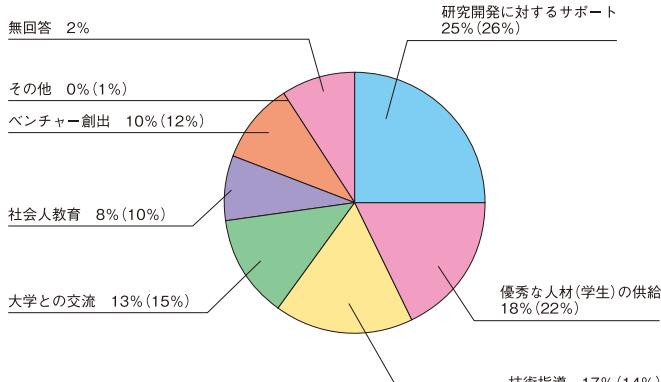
社会人教育 8%(10%)

大学との交流 13%(15%)

研究開発に対するサポート 25%(26%)

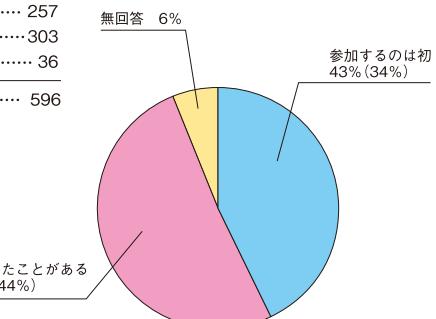
優秀な人材(学生)の供給 18%(22%)

技術指導 17%(14%)

Q
11

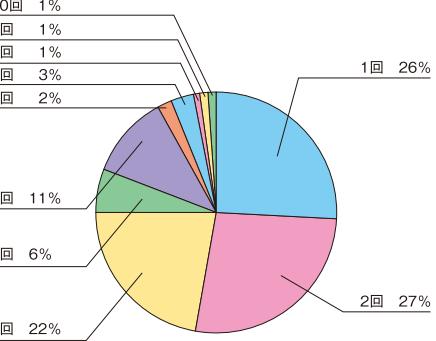
産学連携フェアへの参加状況について お聞かせください。

参加するのは初	257
参加したことがある	303
無回答	36
計	596



産学連携フェア参加回数

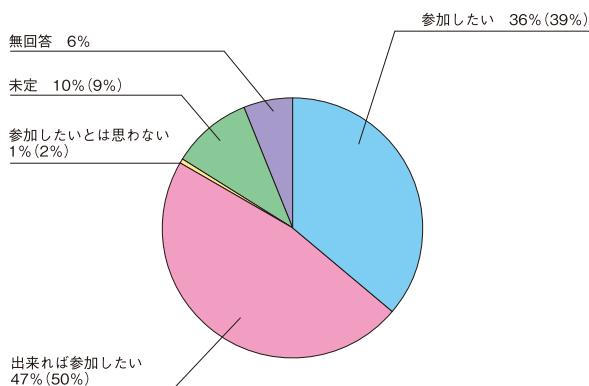
1回	69
2回	70
3回	57
4回	17
5回	28
6回	5
7回	8
8回	3
9回	2
10回	4
計	263



Q
12

来年の来場についてお聞かせください。

参加したい	216
出来れば参加したい	282
参加したいとは思わない	3
未定	59
無回答	36
計	596



●アンケート

Q
13

その他、産学連携フェアに対するご意見等、ご自由にご記入ください。

- 市場動向を中心とした関連のセミナーや自動車関連のセミナーを開催してほしい。
- 今回のように駐車場が確保されれば参加しやすい。
- ビジネスに関するものを探しにきているので、事例をたくさん見せて欲しい。
- 非常に参考になった。関東方面でも開催して欲しい。
- 技術交流の場がとても良い。自分のビジネスに関連した新たな分野へのヒントが得られたら助かる。
- 最新のロボットが見れて良かった。
- 情報の多様性が不足。
- 最先端の市場を担う開発者の話を聞いて参考になった。
- 最新技術の紹介だけでなく、技術を製品に展開する時に工夫した点なども合わせて紹介していただけると助かる。
- 大学との交流の場がもっと欲しい。
- 参加者が少ないのでもっと広告すべき。
- 普段聞けない産学連携を行っての研究の話は普段聞けないので、貴重な時間を過ごすことが出来た。
- プロジェクター資料は配布又は購入できるようにしてほしい。
- 一般大衆化を考えてほしい。説明者の小さなヒントから大発見も出来ると思う。
- 食品業界からもっと来てほしい。
- 一般市民には情報が難しく感じる。
- 目的を絞っていないくとも、来て楽しいイベントがあつてもいいのではないか？
- 会場までの交通の便が悪い。折尾駅や小倉駅よりシャトルバスがあると便利。
- 食品の研究開発などの企業ももっと見てみたいと思った。
- 北九州の立地条件を生かした何かに特化したイベントをしたほうがよい。
- もう少し規模を大きくして欲しい。
- カーエレクトロニクスと防災防災に関するセミナーがあったらよい。

以上

結果報告 出展者アンケート

フェア終了後、出展者を対象にアンケートを実施した。

配布枚数：74枚、回収枚数：33枚、回収率：45%

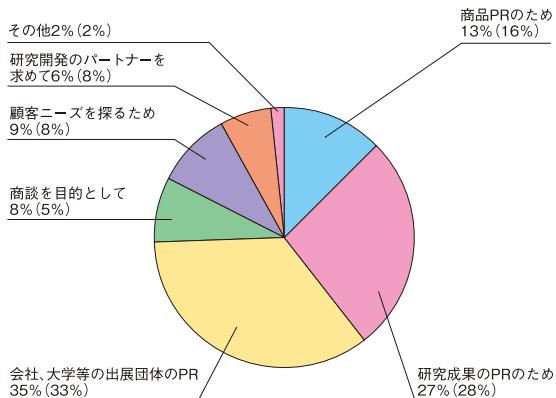
※()の数字は昨年度(第10回)実績です。出展者

Q 1

出展の目的をお聞かせください

商品PRのため	8
研究成果のPRのため	17
会社・大学等の出展団体のPR	22
商談を目的として	5
顧客ニーズを探るため	6
研究開発のパートナーを求めて	4
その他	1
計	63

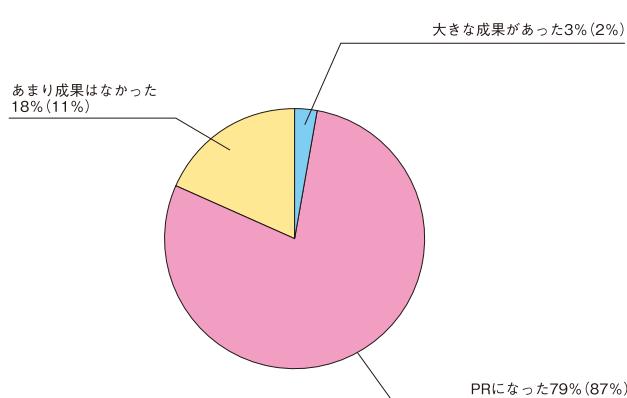
- 特許取得済の再生可能エネルギー利用装置・技術の紹介とパートナー探し
- 産学連携(LEDアプリケーション協議会)の成果物紹介



Q 2

第11回産学連携フェア展示会への出展について

大きな成果があった	1
PRになった	26
あまり成果はなかった	6
計	33

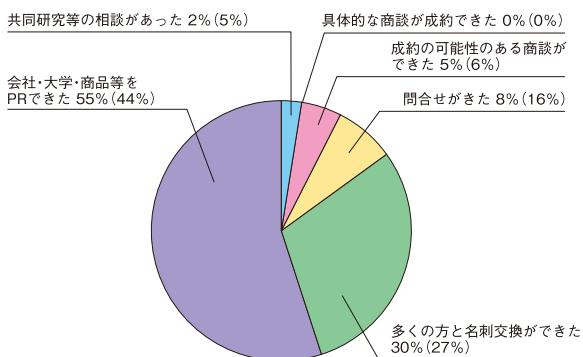


Q 3

(Q.2でチェックした方) 産学連携フェアでの具体的な成果について お聞かせください (複数回答可)

共同研究等の相談があった	1
具体的な商談が成約できた	0
成約の可能性のある商談ができた	2
問合せがきた	3
多くの方と名刺交換ができた	12
会社・大学・商品等をPRできた	22
その他	
計	40

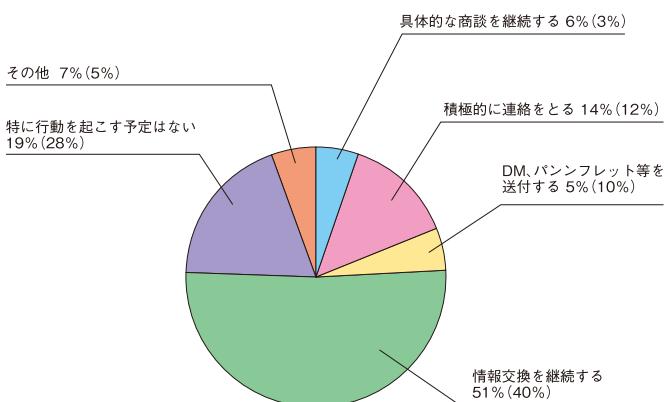
- 企業・役所関係の方にリサイクル品が使用できること、メリットを認知頂けた
- 紹介装置・技術の事業化に向けての製造・販売等の関連での協力打診が有った
- 資料請求、当館調査研究報告書送付依頼
- 会社訪問を予定(関係会社のみ)



Q 4

産学連携フェアでお知り合いになった方に 対して何かアクションを起こされましたか (複数回答可)

具体的な商談を継続する	2
積極的に連絡をとる	5
DM、パンフレット等を送付する	2
情報交換を継続する	19
特に行動を起こす予定はない	7
その他	2
計	37

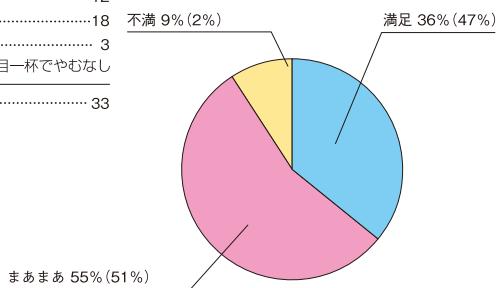


Q
5

展示会会場についてお聞かせください

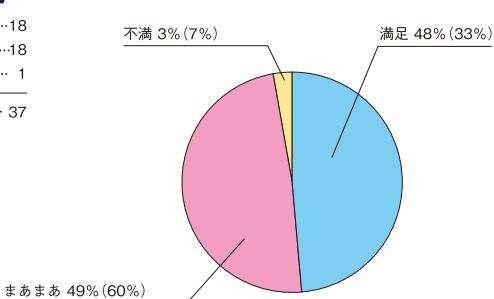
(1)会場の広さ

満足	12
まあまあ	18
不満	3
●学研での開催では目一杯でやむなし	
計	33



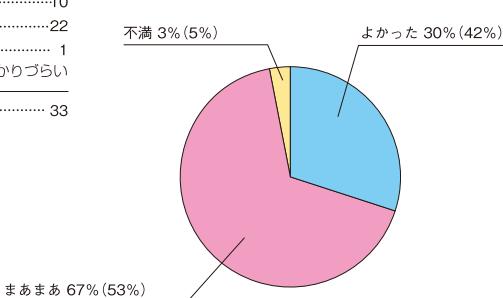
(2)会場の設備

満足	18
まあまあ	18
不満	1
計	37



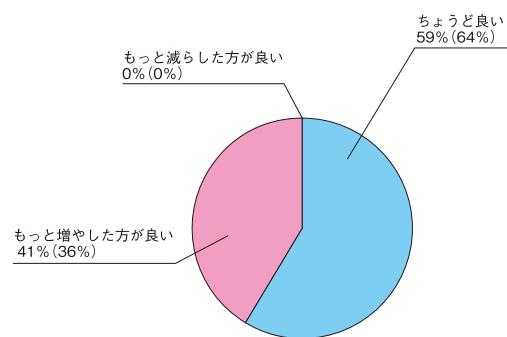
(3)会場の装飾

よかったです	10
まあまあ	22
不満	1
●ブースの看板が分かりづらい	
計	33



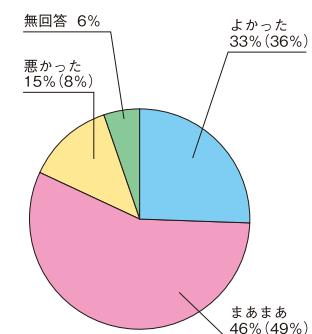
(4)ブース数

ちょうど良い	17
もっと増やした方が良い	12
もっと減らした方が良い	0
計	29



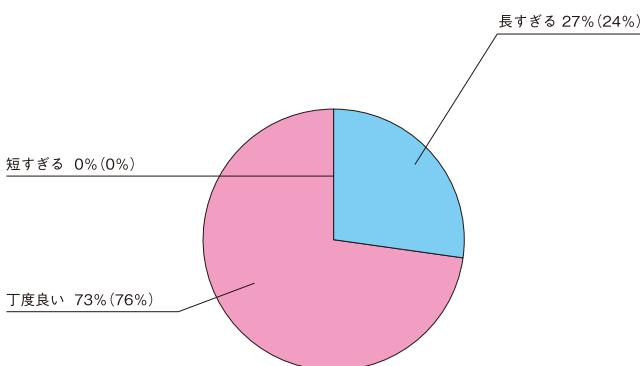
(5)開催場所について

よかったです	10
まあまあ	22
●一般・企業の方に来場いただくには交通の便が悪い	
●例年に比べて来場者数が少ない印象だった (最終日を除く)	
悪かった	5
●アクセスの良い小倉などで行う方が良い	
無回答	2
●学研都市のPRからやむを得ないが利便性が悪いので集客が芳しくない印象	
計	39

Q
6

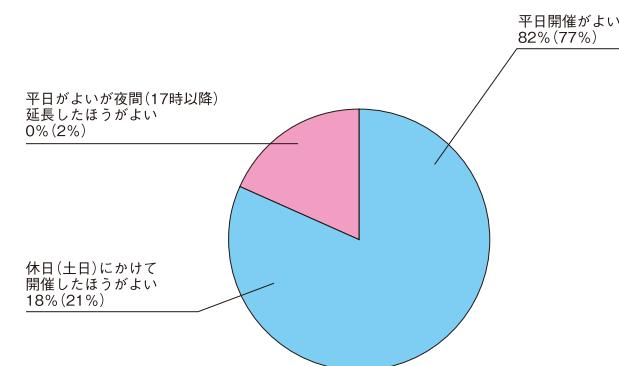
開催期間(3日間)はどうですか

長すぎる	9
丁度良い	24
短すぎる	0
計	33

Q
7

開催日(曜日等)についてお聞かせください

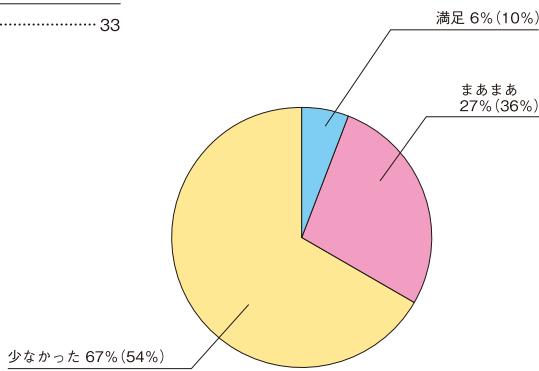
平日開催がよい	27
休日(土日)にかけて開催したほうがよい	6
平日がよいか夜間(17時以降)延長したほうがよい	0
計	33



Q
8

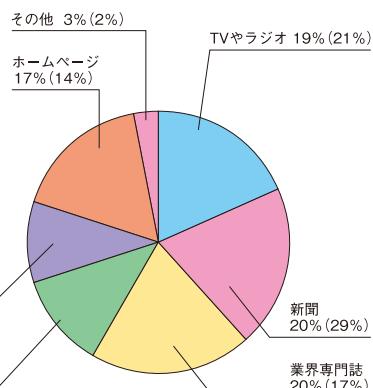
来場者数についてお聞かせください

満足	2
まあまあ	9
少なかった	22
計	33



(2)どのような広報が有効だと思いますか(複数回答可)

TVやラジオ	13
新聞	14
業界専門誌	14
ダイレクトメール	8
Eメール	7
ホームページ	12
その他	2
●ソーシャルネットワークの活用	
●著名な講師による講演開催	
計	70



来場者数についてお聞かせください

- 高校生程度からも来場いただけるイベントが欲しい
- 企業からの来場者が非常に少なかったように思う。また、研究者の来場者よりも学生が圧倒的に多かった。
- 集客について工夫が必要と感じた
- オールドメディア(新聞、テレビなど)ではなく、新しいメディアでの宣伝に期待
- ポスターが何を伝えたいか分かりづらい。また、目に留まらない。

Q
9

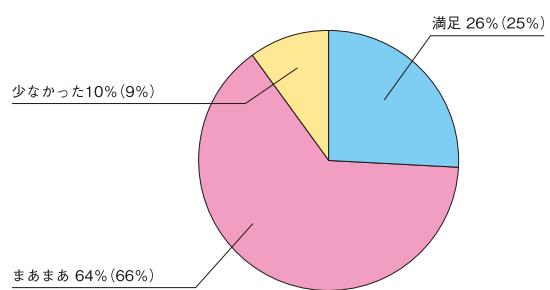
広報活動についてお聞かせください

Q
9

広報活動についてお聞かせください

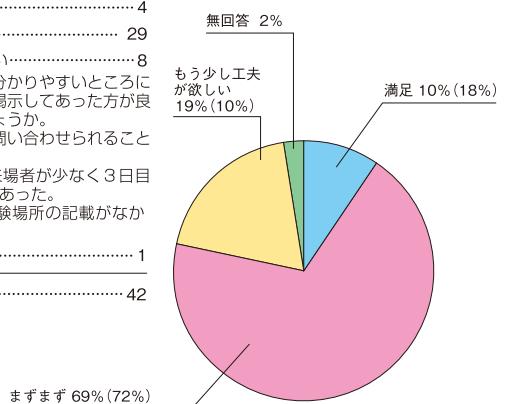
(1)事務局の事前広報活動(ホームページ、新聞広告、DMの送付等)はいかがでしたか

満足	8
まあまあ	20
少なかった	3
計	31



(3)来場者への展示会場のPR及び導線はいかがでしたか

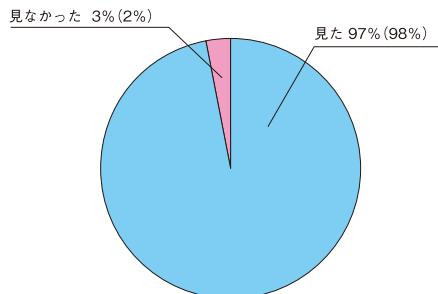
満足	4
ますます	29
もう少し工夫が欲しい	8
●会場図がもっと分かりやすいところにパネルか何かで掲示してあった方が良いのないでしょうか。	
●場所を携帯でと問い合わせられることが多かった	
●初日、2日目の来場者が少なく3日目は、学生が大半であった。	
●配布物に実証試験場所の記載がなかった	
無回答	1
計	42

Q
10

展示会の他のブースについてお聞かせください

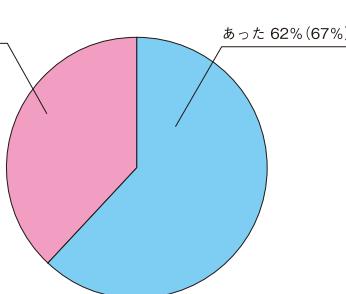
(1)他のブースをご覧になりましたか

見た	32
見なかった	1
計	33



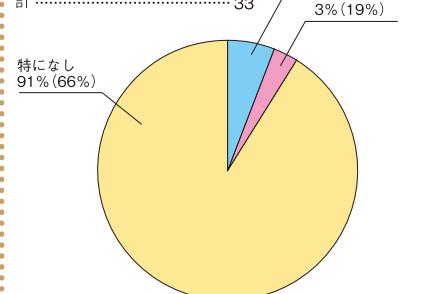
(2)興味を引くブースがありましたか

あつた	20
なかつた	12
計	32



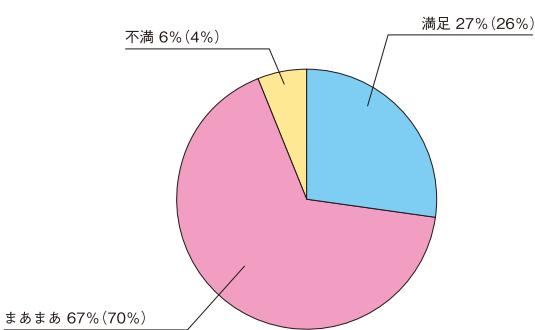
(3)他のブースの方と共同研究・商談等の相談をされましたか

相談した	2
相談を受けた	1
特になし	30
計	33

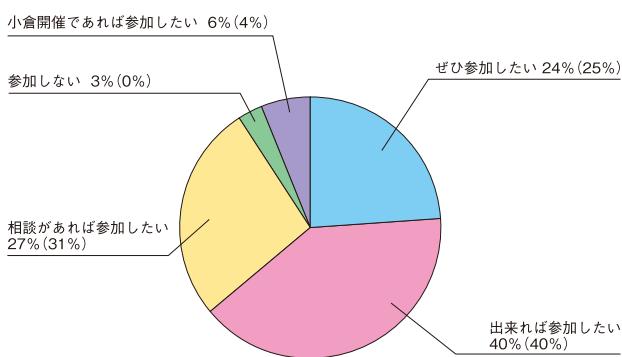


Q
11**全般的な運営はいかがでしたか**

満足	9
●説明を丁寧に聞いていただけた	
●大きな問題等なく、無事出展できたため	
まあまあ	22
●最終日の撤収時間(16:30~)がお客様視点でない	
●閉散としていたこと	
●スタッフを見かけることがあまりなかった	
●展示ブースを安価にするか補助を付けてイメージアップを!	
不満	2
●	
計	33

Q
12**次回連携フェアの参加についてお聞かせください**

ぜひ参加したい	8
出来れば参加したい	13
相談があれば参加したい	9
参加しない	1
小倉開催であれば参加したい	2
計	33

Q
13**第11回産学連携フェアの感想や今後の開催についてのご意見、ご要望をお聞かせください**

- 次回も、保有技術シーズの積極的なPRの場として、活用させていただきたいと思う。
- ご来場頂いた方へは、十分製品や技術をPRできたと思うが、来場者数が少なく、どのブースも手持ち無沙汰であったように見えた。交通の便が悪いので仕方ないとは思うが、もう少し多くの方のご来場を期待する。
- とにかくイベント性がないので来客数が少ない。
- セミナー開催時間はほとんど人が来ない時間が多かった。
- 今回から、HPから原稿入稿できるようになった所が良かったと思う。
- 展示内容を決めるまでに時間がかかり、パンフレット記載内容を決めるまで時間がかかるので、もう少し時間を頂けるとありがたい。
- マーケティング目的で出展したが、来場者の多くが学生だったことや、他の出展ブースの説明員が代理だったりして、有意義な情報交換が出来なかつた。投資した時間が有効に使われたと思えなかった。企業からの来場者が少ないので仕方ないか、最低でも実際の研究者と話す機会が欲しかった。
- ひびきの祭や環境系のイベントと同時に開催にすると動員がはかれるのでは?
- セミナーの参加者に学生の姿が少なかったように思うので、大学でもっと周知させたほうが良いかと思う。せっかく良い内容の講演なのにもったいない気がした。
- セミナー等参加者が流れでブースの方まで足を運んでくれたが、思ったほどの人数では無かった。平日の関係もあり、企業参加者の来訪も少なかった。
- 展示会では、会場面で、非常にたすかった。ありがとうございました。
- 来場者よりも出展者が各ブースを回ってみている人数が多いように感じられたため、来場者を増やす工夫を行った良いのではないか。
- 展示会そのものが冴えないのか、展示会のコンセプトや切口で違いをみせれば、にぎわいのある展示会になると思う。
- 出展ならびにセミナー開催の機会をご提供いただきありがとうございました。
- 産学連携を榜標しているが、余り、産学連携の成果を感じられなかった。
- 一般企業が今後の新事業展開として位置付けられる魅力あるシーズの提案は余り無かった。
- 学術研究都市10周年記念の一環として開催された「第11回産学連携フェア」としては、民間企業の出展が減少し、出展ブースも不況のせいか、貧弱になってきている。また、各展示ブースもパネルのみの紹介が増え、展示品が減少している様だ。次回、角位置のブースには、大きめの看板等で少しフォローしていただけるとうれしい。
- ブースも少ないので、館内放送により各ブースの紹介すれば良いのではないか。
- 動員人数が年々減少しているように感じる。今年は学研都市10周年記念の年でもあるため期待も大きかったが、例年と大きく変わることろはなかったように感じる。やはり場所のせいだろうか。
- 土曜日も入れた3日間開催ができれば、一般の方々も結構参加できるのではないかと思う。産学官連携というものを高専生のみならず高校生にも見せられれば、よりよい地域貢献ができると思う。
- 初日、2日目の来場者数が少なく、例年であれば基調講演がある日が一番盛り上がる傾向だったが、あいにくの雨の最終日が一番多かったようだ。セミナー等の組み合わせを考慮し、3日間とも来場者が多く、盛り上がるようにできたらいいと思う。また、学生さんの来場者が例年に比べると少なかったように思えた。学術研究都市の開催である以上、学生さんで盛り上がることを次回から期待する。
- ひびきの開催だとどうしても一般からのアクセスが大変。やはり小倉開催が良いのでは。出展申込者専用ページの存在意義が全く感じられなかった。
- 最終日は、生憎の雨模様でしたが、運営スタッフの皆様お世話になつた。
- エコテクノの次の週かつ同じく平日の開催で、来場を期待している企業・行政などの方々は出づらいかと想像する。一度、試験的に土日に開催するなど工夫も必要かと思われる。

結果報告 セミナー・シンポジウム 実施機関アンケート

フェア終了後、セミナーシンポジウム実施機関を対象にアンケートを実施した。

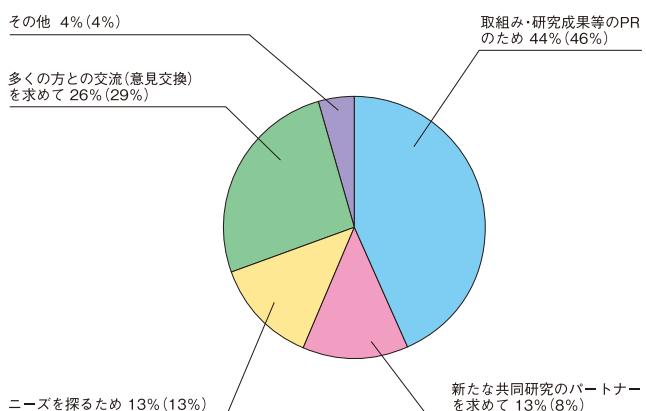
配布枚数：23枚、回収枚数：14枚、回収率：57%

※()の数字は昨年度(第10回)実績です。セミナー

Q 1

セミナー実施・開催の目的をお聞かせください(複数回答可)

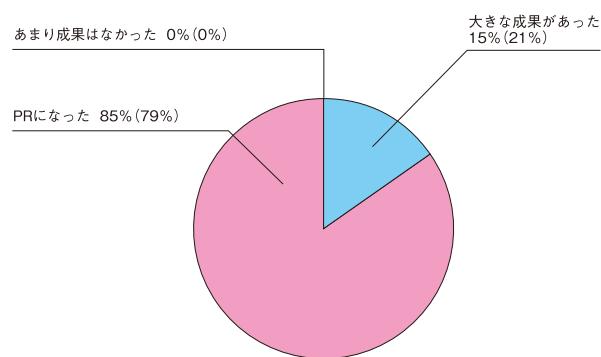
取組み・研究成果等のPRのため	10
新たな共同研究のパートナーを求めて	3
ニーズを探るため	3
多くの方との交流(意見交換)を求めて	6
その他	1
計	23



Q 2

セミナー・シンポジウム実施について

大きな成果があった	2
PRになった	11
あまり成果はなかった	0
計	13



Q 3

(Q.2でチェックした方)セミナー開催による具体的な成果についてお聞かせください(複数回答可)

共同研究等の相談があった	0
具体的なパートナーができた	0
連携の可能性のあるパートナーができた	1
問合せがきた	3
多くの方と意見交換ができた	3
取組みや研究成果等をPRできた	9
その他	1
計	17

Q 4

セミナーでお知り合いになった方に対して何かアクションを起こされましたか

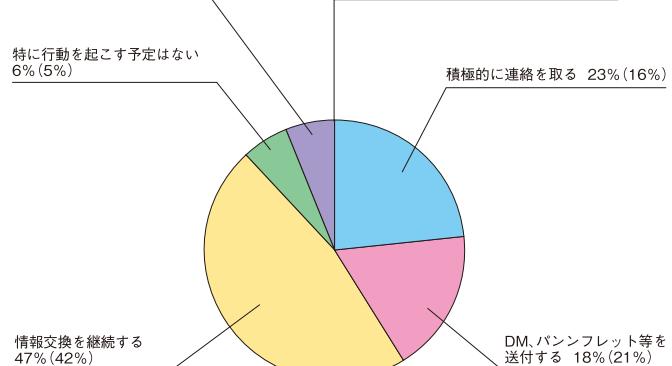
新たなパートナーと連携を図る	0
積極的に連絡を取る	4
DM、パンフレット等を送付する	3
情報交換を継続する	8
特に行動を起こす予定はない	1
その他	1
●すぐにではないが、今後、アクションを起こす予定	
計	17

Q 5

(Q.4でチェックした方)セミナー開催による具体的な成果についてお聞かせください(複数回答可)

共同研究等の相談があった	0
具体的なパートナーができた	0
連携の可能性のあるパートナーができた	6
問合せがきた	17
多くの方と意見交換ができた	18
取組みや研究成果等をPRできた	53
その他	6

その他の割合



Q
5

セミナー会場についてお聞かせください

(1)会場の広さ

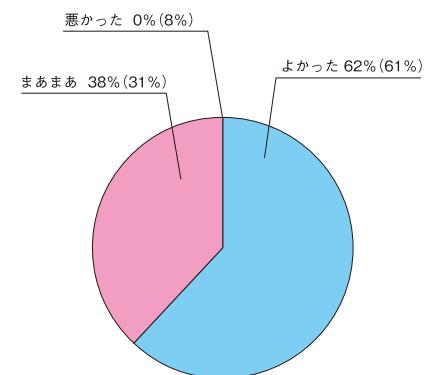
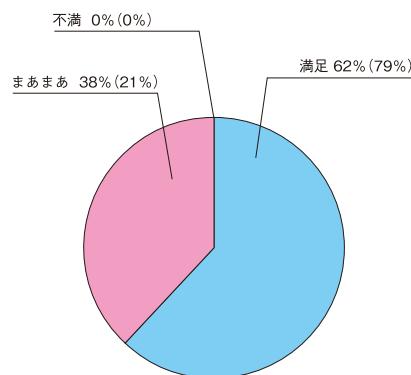
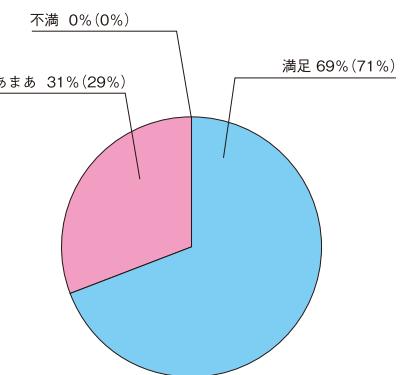
満足	9
まあまあ	4
不満	0
計	13

(2)会場の設備

満足	10
まあまあ	2
不満	1
計	13

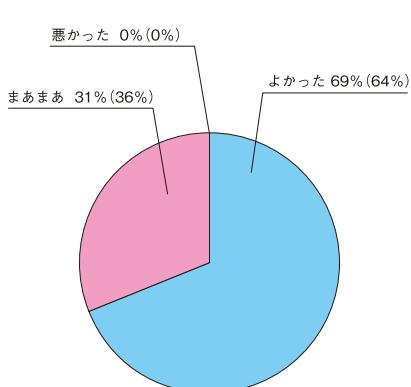
(3)開催場所(学研都市)について

よかったです	8
まあまあ	5
悪かったです	0
計	13

Q
6

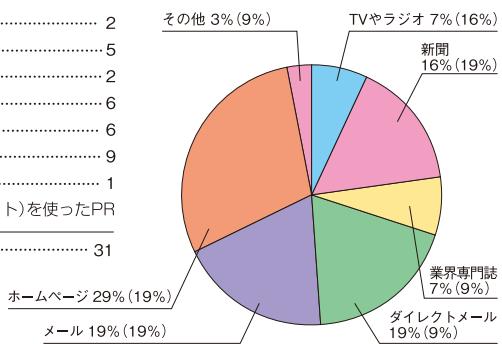
セミナーの来場者数についてお聞かせください

よかったです	9
まあまあ	4
悪かったです	0
計	13



(2)今後どのような広報が有効だと思いますか(複数回答可)

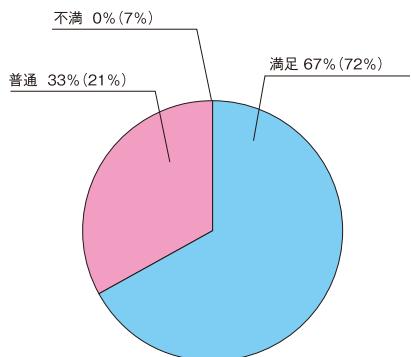
TVやラジオ	2
新聞	5
業界専門誌	2
ダイレクトメール	6
メール	6
ホームページ	9
その他	1
●実機(例えばロボット)を使ったPR	
計	31

Q
7

広報活動についてお聞かせください

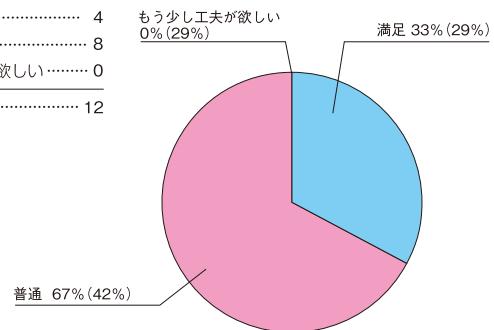
(1)事務局の事前広報活動(ホームページ、新聞広告、DMの送付等)はいかがでしたか

満足	10
普通	5
不満	0
計	15



(3)来場者へのセミナー会場のPR及び案内はいかがでしたか

満足	4
まずまず	8
もう少し工夫が欲しい	0
計	12



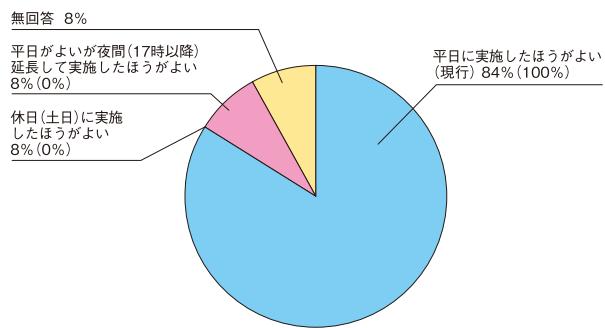
(4)広報についてご意見がございましたらお聞かせください

●ホームページ上で、リーフレットやガイドブックの提出が出来て、便利だった。

※()の数字は昨年度(第10回)実績です。セミナー

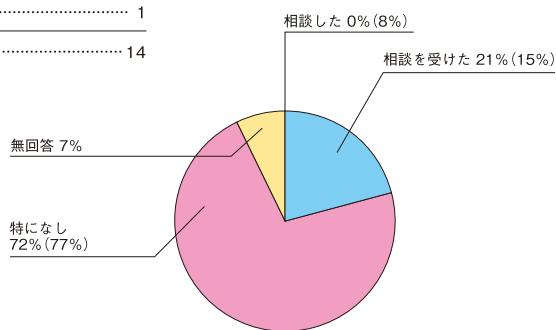
Q 8 フェアの開催日・時間について、今後実施しやすいものを選択してください

平日に実施したほうがよい(現行)	11
休日(土日)に実施したほうがよい	0
平日がよいか夜間(17時以降)延長して実施したほうがよい	1
無回答	1
計	13



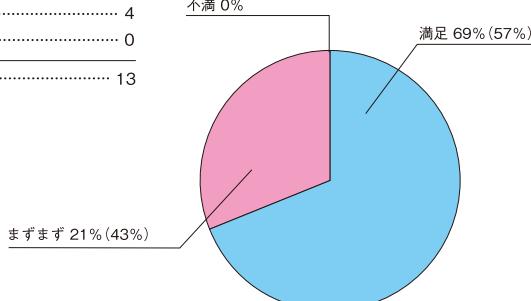
(4)他のセミナーや展示会において共同研究・商談等の相談をされましたか

相談した	0
相談を受けた	3
特になし	10
無回答	1
計	14



Q 10 フェアの全般的な運営はいかがでしたか

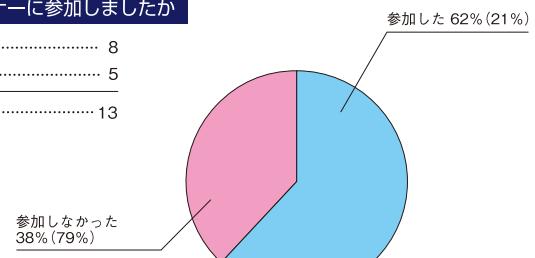
満足	9
まことに	4
不満	0
計	13



Q 9 他のセミナーや展示会への参加についてお聞かせください

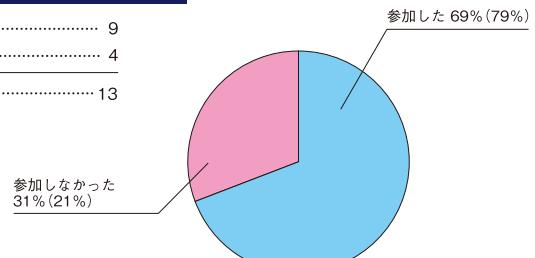
(1)他のセミナーに参加しましたか

参加した	8
参加しなかった	5
計	13



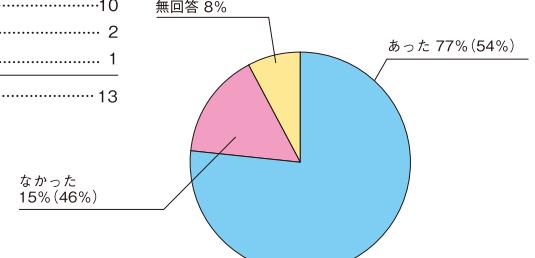
(2)展示会に参加しましたか

参加した	9
参加しなかった	4
計	13



(3)興味を引くセミナーや展示会がありましたか

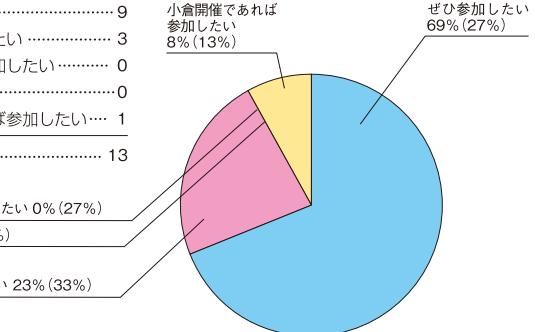
あつた	10
なかつた	2
無回答	1
計	13



Q 11 次回連携フェアの参加についてお聞かせください

ぜひ参加したい	9
出来れば参加したい	3
相談があれば参加したい	0
参加しない	0
小倉開催であれば参加したい	1
計	13

相談があれば参加したい	0%
参加しない	0%
出来れば参加したい	23% (33%)



Q 12 第11回産学連携フェアの感想や今後の開催についてのご意見、ご要望をおきかせください

- 来年も開催されるのであれば参加したい。
- 西日本総合展示場で開催して欲しい。
- 本セミナーの開催では、会場面で、非常に助かりました。ありがとうございました。

結果報告 セミナー及びシンポジウム

「先端エコフィッティング技術研究開発センター」ワークショップ ～エコフィッティング・インデックスで示す技術インパクト

開催日時 **10月19日水** ▶15:00～16:30 主催 九州工業大学 先端エコフィッティング技術研究開発センター

会場 中会議室 1

参加人数

60名

【参加内訳】 ●大学(学校)関係者／13名 ●企業／33名
●行政／4名 ●研究機関／10名 ●その他／1名

報告プログラム [全体 1時間30分]

【センター長挨拶】 春山 哲也 (先端エコフィッティング技術研究開発センター長 (併任) 生命体工学研究科 教授) (10分)

【講演1】 「焼かずに作るエコフィッティングセラミックス」(15分)
宮崎 敏樹 (生命体工学研究科 准教授)

【講演2】 「希少元素減量型の高性能チタン合金による材料エコフィッティング」(15分)
北浦 知之 (先端エコフィッティング技術研究開発センター 助教)

【講演3】 「稀少金属を用いないエコフィッティング電子素子(発光ダイオード)」(15分)
中尾 基 (工学研究院基礎科学研究系 准教授)

【講演4】 「下水汚泥の減容とバイオエネルギー生産：エコフィッティングな循環式汚水処理プロセス」(15分)
前田 駿成 (生命体工学研究科 助教)

【講演5】 「プラスチックエレクトロニクスによるデバイスエコフィッティング」(15分)
高嶋 操 (先端エコフィッティング技術研究開発センター 准教授)

【質疑・閉会の辞】 16:25～16:30

●エコフィッティングという共通のキーワードに基づく各研究について、基礎的な質問から応用問題まで幅広い内容に関して討論が行われた。

報告者 ● 北浦 知之 九州工業大学 先端エコフィッティング技術研究開発センター 助教

連絡先 ● TEL: 093-695-6236 FAX: 093-695-6005

● シンポジウム

動き出したパワーエレクトロニクス研究 —研究拠点を目指して—

開催日時 **10月19日水** ▶15:00～16:00 主催 財団法人 国際東アジア研究センター (ICSEAD)

会場 中会議室 2

参加人数

66名

【参加内訳】 ●大学(学校)関係者／4名 ●企業／38名
●行政／12名 ●研究機関／2名 ●その他／10名

報告プログラム [全体 1時間]

【講演1】 「パワーエレクトロニクス研究への取り組み」(20分)
大村 一郎 (財団法人国際東アジア研究センター環境エレクトロニクス研究グループ グループリーダー (併任))
(九州工業大学 工学研究院 電気電子工学研究系 教授)

【講演2】 「スイッチング電源の高性能化に関する研究」(20分)
安部 征哉 (財団法人国際東アジア研究センター 環境エレクトロニクス研究グループ 上級研究員)

【講演3】 「パワー半導体の高性能化に関する研究」(20分)
附田 正則 (財団法人国際東アジア研究センター 環境エレクトロニクス研究グループ 一般研究員)

報告者 ● 西 千鶴 国際東アジア研究センター事務局 庶務主任

連絡先 ● TEL: 093-583-6202 FAX: 093-583-6576

バイオインフォマティクスと臨床研究の融合事例を通じてライフサイエンスとバイオツールの協奏を目指す

開催日時 **10月19日水** ▶15:00～17:30 主催 財団法人北九州産業学術推進機構 産学連携統括センター
(共催：北九州医歯工連携検討会議)

会場 学術情報センター遠隔講義室 1

参加人数

78名

【参加内訳】 ●大学(学校)関係者／26名 ●企業／16名
●行政／33名 ●研究機関／2名 ●その他／1名

報告プログラム [全体 2時間30分]

【講演1】 「ゲノム情報とバイオインフォマティクス」(60分)
五條堀 孝 (大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 副所長・教授)

【講演2】 「脳神経系におけるウイルスベクター研究の進展－神経難病に対する先端的治療法の確立を目指して－」(40分)
平井 宏和 (群馬大学大学院医学系研究科脳神経病態制御学講座 教授)
(生体調節研究所附属生体情報ゲノムリソースセンター長)

【講演3】 「多点平面電極法による細胞外電位記録の研究動向」(40分)
慈幸 秀保 (アルファメッドサイエンティフィック株式会社 代表取締役社長)

【講演4】 「幹細胞研究ツールの開発：胚様体形成と分化誘導」(15分)
八尋 寛司 (STEMバイオメソッド株式会社 代表取締役社長)

報告者 ● 二見 昌太郎 財団法人北九州産業学術推進機構 事業推進部 事業企画担当課長

連絡先 ● TEL: 093-695-3006 FAX: 093-695-3018

テーマ マイクロ波技術が化学を変える

開催日時	10月20日木 ▶10:00～11:30	主 催	九州工業大学 大学院情報工学研究院、 日本電磁波エネルギー応用学会 (JEMEA)		
会 場	研修室	参加人数	60名	【参加内訳】 ●大学(学校)関係者／30名 ●企業／20名 ●行政／5名 ●その他／5名	

《報告》プログラム [全体 1時間30分]

【講演1】 「マイクロ波技術が化学を変える」(80分)
大内 将吉 (九州工業大学 大学院情報工学研究院 生命情報工学研究系 准教授)

【質疑】 (10分)

- 金属表面の塗装へマイクロ波技術が応用できなかいか。
- マイクロ波エネルギーを効率よく使うための方法は。
- 周波数、出力、装置など、まだまだ多くの可能性のある技術。

報告者 ● 大内 将吉 九州工業大学 情報工学部生命情報工学科 准教授
連絡先 ● TEL: 0948-29-7824 FAX: 0948-29-7801

**ものづくり力向上 IT化セミナー
一画期的な製造業の生産管理IT化と現場入力作業の革命－**

開催日時	10月20日木 ▶10:00～12:30	主 催	独立行政法人 産業技術総合研究所		
会 場	中会議室 1	参加人数	51名	【参加内訳】 ●大学(学校)関係者／1名 ●企業／43名 ●行政／3名 ●研究機関／2名 ●その他／2名	

《報告》プログラム [全体 2時間30分]

【講演1】 「製造業のサバイバルと画期的 IT化 (MZPF導入)」(15分)
吉田 重治 (独立行政法人産業技術総合研究所 イノベーションコーディネータ)

【講演2】 「MZPF導入による社内 IT化」(30分)
澤田 浩之 (独立行政法人産業技術総合研究所 製造情報研究グループ長)

【講演3】 「聖徳ゼロテックにおけるMZPF導入事例の紹介
—聖徳ゼロテック・リアルタイム製造原価管理システムー」(40分)
古賀 忠輔 (聖徳ゼロテック株式会社取締役 副社長)

【講演4】 「騒音環境対応音声認識入力結合型MZPF導入企業の事例紹介」(40分)
山口 哲 (情報通信事業部部長代理)

【質疑】 (15分)

〈質問〉 現在約200種類のMZPF [MZ プラットフォーム] コンポーネント (ソフトウェア部品) 数において、今までのMZPF導入事例で不足したケースがあったか? また今後の導入ケースにおいてMZPFコンポーネントが不足する事態が発生した場合はどの様に対処すれば良いか?

〈回答〉 不足したケースは無い。不足ケースが発生した場合は(独)産総研において対応する。

報告者 ● 吉田 重治 独立行政法人 産業技術総合研究所 イノベーションコーディネータ
連絡先 ● TEL: 092-282-0283 FAX: 092-282-0281

システムLSI産学連携研究成果

開催日時	10月20日木 ▶11:00～12:00	主 催	早稲田大学大学院情報生産システム研究科 システムLSI分野		
会 場	中会議室 2	参加人数	33名	【参加内訳】 ●大学(学校)関係者／8名 ●企業／18名 ●行政／4名 ●研究機関／3名	

《報告》プログラム [全体 1時間]

【講演1】 「ICTアプリケーションLSIIPとその先端的設計技術の研究開発」(30分)
渡邊 孝博 (早稲田大学大学院情報生産システム研究科 教授)

【講演2】 「ミクストシグナルLSIIPとその先端的設計技術の研究開発」(30分)
吉増 敏彦 (早稲田大学大学院情報生産システム研究科 教授)

報告者 ● 井上 靖秋 早稲田大学大学院情報生産システム研究科 教授
連絡先 ● TEL: 093-692-5372 FAX: 093-692-5372

テーマ

日台環境ビジネスセミナー ～日本と台湾の太陽電池の新時代～

開催日時

10月20日木

▶10:00～12:00

主 催 財団法人北九州産業学術推進機構、台北駐日經濟文化代表處

会 場

学術情報センター遠隔講義室1

参加人数

77名

【参加内訳】●大学(学校)関係者／0名 ●企業／48名

●行政／12名 ●研究機関／2名 ●その他／15名

《報告》プログラム【全体2時間】

【講演1】 「台湾における太陽電池産業の現状と展望」※中国語での講演 日本語逐次通訳あり (40分)
 周 憲忠 (瑞晶應用材料科技股份有限公司)(Real Green Material Technology corp.) 総經理 (代表取締役社長)

【講演2】 「ソーラーアイランド九州の現状と今後の展開」
 ～九州ソーラーネットワークによる普及拡大と産業振興～※日本語での講演 (30分)
 藤井 学 (財団法人大九州経済調査協会調査部 研究主査)

【講演3】 「台湾経済貿易の最新動向と日台アライアンス事例」※日本語での講演 (40分)
 余 吉政 (台北駐日經濟文化代表處 経済組長)

【解説】 「台湾の太陽電池産業補足説明」(10分)

【ファシリテーター】 岸本 千佳司 (財団法人国際東アジア研究センター 上級研究員)

報告者 ● 五郎丸 潤 財団法人北九州産業学術推進機構 総務企画部 企画広報課

連絡先 ● TEL: 093-695-3111 FAX: 093-695-3010

テーマ

エネルギーと環境に資するナノ触媒

開催日時

10月20日木

▶13:00～15:30

主 催 公益社団法人石油学会 九州・沖縄支部

会 場

研修室

参加人数

102名

【参加内訳】●大学(学校)関係者／73名 ●企業／24名

●行政／2名 ●研究機関／3名 ●その他／0名

《報告》プログラム【全体2時間30分】

【講演1】 「ナフサ接触分解用実用触媒の開発をめざして」(50分)
 辰巳 敬 (東京工業大学資源化学研究所 所長、教授)

【講演2】 「ジメチルエーテル改質用スピネル触媒におけるCuナノ粒子の生成と再分散」(50分)
 江口 浩一 (京都大学工学研究科 教授)

【講演3】 「ナノサイズ酸化物複合による触媒反応パスの多様化・効率化」(50分)
 浅岡 佐知夫 (北九州市立大学国際環境工学部 教授)

【質疑】 (会場とのやりとりについて記述)

●講演で紹介された内容に関して、学術的な意見と工業的な意見双方が数多く質問された。

●発表された技術に関して、仮説の証拠を明らかにするための議論が活発になされた。

●参加した学生にもわかりやすいような質疑応答がなされた。

報告者 ● 浅岡 佐知夫 北九州市立大学 国際環境工学部 エネルギー循環化学科 教授

連絡先 ● TEL: 093-695-3290 FAX: 093-695-3382

●セミナー及び
シンポジウム

テーマ

ふくおかIST「IST産学官事業」成果発表会

開催日時

10月20日木

▶13:00～14:30

主 催 財団法人福岡県産業・科学技術振興財団(ふくおかIST)

会 場

中会議室1

参加人数

57名

【参加内訳】●大学(学校)関係者／4名 ●企業／28名

●行政・研究機関／25名

《報告》プログラム【全体2時間】

【挨拶】 中村 裕章 (財団法人福岡県産業・科学技術振興財団 研究開発部長)(5分)

【紹介】 IST産学官事業等の事業説明
 中村 憲和 (財団法人福岡県産業・科学技術振興財団 研究開発部主幹)(15分)

【講演1】 「高硬度ナノ多結晶ダイヤモンド製切削工具に対するチッピングフリー仕上げ成形技術の開発」(35分)
 仙波 卓弥 (福岡工業大学 教授)

【質疑】 ●加工時の温度に関して、質問があり、適切に回答された。

【講演2】 「回転機のレヤー絶縁診断システムの開発」(35分)
 野田 英治 (桑原電工株式会社 代表取締役社長)

【質疑】 ●今後の事業化に関して質問があり、企業としての方針を説明された。
 ●診断技術に関して質問があり、詳細に回答された。

報告者 ● 中村 憲和 財団法人福岡県産業・科学技術振興財団 研究開発部 主幹

連絡先 ● TEL: 092-725-2781 FAX: 092-725-2786

テーマ

「経営に活かそう知的財産！発想の転換でニュービジネス創出」 ～中小企業知的財産戦略セミナー～

開催日時

10月20日木
▶15:00～17:00

主 催

九州知的財産戦略協議会

(九州経済産業局/北九州市/財団法人北九州産業学術推進機構)

会 場

中会議室1

参 加 人 数

43名

【参加内訳】
 ●企業/12名(製造業/6名 建設業/2名 サービス業/3名)
 農林水産業/1名 ●個人事業主/4名 ●大学/4名
 ●行政機関/3名 ●弁理士/1名 ●その他/6名 ●不明/13名
 《報告》プログラム
[全体
2時間]

- 【講演1】 「発明から開発・製造・販売までの奮闘記」
 ~冬季の自動車フロントガラスの氷除去、屋根の雪下ろし用ネットの事業化~(90分)
 鍵本 芳寿 (エコネットジャパン株式会社 代表取締役)
- 【講演2】 「知って得する知的財産関連支援策」(30分)
 佐藤 ちづる (特許庁 産業財産権専門官)

報告者 ● 國 奈津子 財団法人北九州産業学術推進機構 北九州知的所有権センター
 連絡先 ● TEL: 093-873-1432 FAX: 093-873-1455

テーマ

CAEを活用したものづくり力向上

開催日時

10月20日木
▶13:00～15:30

主 催

福岡県工業技術センター機械電子研究所、

福岡県工業技術センタークラブ機械電子技術部会

会 場

中会議室2

参 加 人 数

47名

【参加内訳】
 ●大学(学校)関係者/4名 ●企業/25名
 ●その他/10名 ●事務局/8名
 《報告》プログラム
[全体
2時間30分]

- 【講演1】 「熱流体解析シミュレーションを活用したものづくり事例」(60分)
 春本 孝一郎 (株式会社ソフトウェアクリエイドル 技術部 技術一課 主任)
- 【質疑】 ●受託解析、熱流体ソフトウェア (STERAM、熱設計 PAC、SCRYU/Tetra) のそれぞれの利点の詳細について、質疑応答が行われた。(10分)
- 【講演2】 「構造強度解析シミュレーションを活用したものづくり事例」(60分)
 井上 俊明 (サイバネットシステム株式会社 メカニカルCAE事業部)
- 【質疑】 ●材料データベースについて、質疑応答が行われた。(10分)

報告者 ● 吉村 賢二 福岡工業技術センター機械電子研究所 機械技術課 専門研究員
 連絡先 ● TEL: 093-691-0260 FAX: 093-691-0252

テーマ

工業炉業界の現状と今後の展望

開催日時

10月20日木
▶16:00～17:00

主 催

福岡県工業技術センター機械電子研究所、
異業種交流グループ ヒットエッグ

会 場

中会議室2

参 加 人 数

30名

【参加内訳】
 ●大学(学校)関係者/0名 ●企業/28名
 ●行政/1名 ●研究機関/0名 ●その他/1名
 《報告》プログラム
[全体
1時間]

- 【基調講演】 林 静男 (富士電機サーモシステムズ株式会社・顧問 兼 富士電機株式会社 産業システム事業本部・主幹)(47分)
- 【質疑】 ●技術的内容についての質問2件などを受け、ディスカッションした。(3分)

報告者 ● 松野 教司 福岡県工業技術センター機械電子研究所 異業種交流事務局
 連絡先 ● TEL: 093-691-0231 FAX: 093-691-0252

●セミナー及び
シンポジウム

テーマ 北九州発！新たな水ビジネスの展開について

開催日時	10月20日木	▶13:30～15:30	主 催	財団法人北九州産業学術推進機構 (共催:アジア低炭素化センター 後援:北九州市建設局)
会 場	学術情報センター遠隔講義室1		参加人数	142名
		【参加内訳】 ●大学(学校)関係者／11名 ●企業／88名 ●行政／25名 ●研究機関／4名 ●その他／3名		

【報告】プログラム [全体 2時間]

【開会挨拶】 納富 啓 (財団法人北九州産業学術推進機構 産学連携統括センター センター長)(5分)

【講演1】 「エンジニアリング企業による海外水ビジネス展開」(40分)
大熊 那夫紀 (株式会社日立プラントテクノロジー 環境エンジニアリング事業部 副事業部長)

【講演2】 「海外水ビジネス市場の動向について」(30分)
高橋 史 (日本貿易振興機構(ジェトロ) 機械・環境産業部 インフラ・プラントビジネス支援課 水システム担当)

【講演3】 「インドネシア・スラバヤ市の上下水調査報告」(25分)
樺沢 敬視 (株式会社松尾設計 公共設計部 担当部長)

【講演4】 「ウォータープラザ北九州テストベッドにおける新型下水処理技術開発」(20分)
真鍋 征一 (株式会社セパシグマ 代表取締役社長・研究所長)

報告者 ● 二見 昌太郎 財団法人北九州産業学術推進機構 事業推進部 事業企画担当課長
連絡先 ● TEL: 093-695-3006 FAX: 093-695-3018

● シンポジウム

テーマ 北九州発！新技術・新製品と先端研究シーズを紹介

開催日時	10月21日金	▶10:00～12:00	主 催	財団法人北九州産業学術推進機構 産学連携統括センター
会 場	研修室		参加人数	49名
		【参加内訳】 ●大学(学校)関係者／2名 ●企業／40名 ●行政／2名 ●研究機関／5名		

【報告】プログラム [全体 2時間 10分]

【講演1】 「幹細胞の3次元個別培養分化コンパクトデバイスの開発」(20分)
八尋 寛司 (STEMバイオメソッド株式会社 代表取締役社長)

【講演2】 「高放熱LED/パッケージおよび高放熱照明モジュールの開発」(20分)
石原 政道 (株式会社STEQ 代表取締役)

【講演3】 「超耐久性ナノ粉末による溶融溶接表面改質技術及び溶接装置の開発」(20分)
牟 用煥 (株式会社フジコー商品・生産技術開発室 主任)

【講演4】 「高いインフルエンザウィルス不活性化能を示す石けんの開発」(20分)
秋葉 勇 (北九州市立大学国際環境工学部エネルギー循環化学科 准教授)

【講演5】 「北九州市を低炭素化実践 NO.1 都市とするための、
新方式によるカーボンニュートラルなバイオ由来炭化水素油製造装置の開発と実用化」(20分)
石橋 篤 (株式会社リサイクルエナジー北九州研究室 研究員)

【質疑応答】 (会場とのやりとりについて記述)
●それぞれの研究開発において、既存技術との相違点や今後の事業化に係る展望等について意見交換がなされた。

報告者 ● 高村 真 財団法人北九州産業学術推進機構 産学連携統括センター事業推進部事業推進課 統括主任
連絡先 ● TEL: 093-695-3006 FAX: 093-695-3018

テーマ 北九州発の新たなバイオマス資源利活用の新展開

開催日時	10月21日金	▶10:00～12:00	主 催	北九州市立大学国際環境工学部
会 場	中会議室1		参加人数	54名
		【参加内訳】 ●大学(学校)関係者／15名 ●企業／22名 ●行政／4名 ●研究機関／13名 ●その他／0名		

【報告】プログラム [全体 2時間]

【講演1】 「食品廃棄物エタノール化をはじめとするバイオマスのエネルギー化への取り組み」(40分)
日高 亮太 (新日鉄エンジニアリング株式会社技術開発研究所 プラント商品開発室 シニアマネジャー)

【講演2】 「微細藻類の培養・接触改質型バイオ燃料」(40分)
浅岡 佐知夫 (北九州市立大学国際環境工学部 教授)

【講演3】 「塩性植物と耐塩性メタン発酵微生物を用いた中央アジア塩害農地の生物学的修復」(40分)
安井 英斎 (北九州市立大学国際環境工学部 教授)

【質疑】 (会場とのやりとりについて記述)
●バイオエタノールの実業化の見込みについて、詳細に説明した。
●微細藻類の種類、生産、エネルギー化について、日本の現状と将来の発展について討論した。
●ウズベキスタンを中心にして、自然災害のメカニズム、および好塩性植物からエネルギー製造について説明した。

報告者 ● 黎 晓紅 北九州市立大学 国際環境工学部 エネルギー循環化学科 教授
連絡先 ● TEL: 093-695-3286 FAX: 093-695-3378

テーマ デジタルエンジニアリングによるものづくり技術の紹介

開催日時 **10月21日金** ▶11:00～12:00

主 催 西日本工業大学

会 場 中会議室2

参加人数 **40名**

【参加内訳】 ●大学(学校)関係者／25名 ●企業／15名
●行政／0名 ●研究機関／0名 ●その他／0名

《報告》プログラム [全体 1時間]

【講演1】 「デジタルエンジニアリングを活用したプレス金型の設計技術」(30分)
野中 智博 (工学部 デジタルエンジニアリング学科 准教授)

【講演2】 「ヘール工具を用いた精密仕上げ加工技術の紹介」(30分)
吉丸 将史 (工学部 デジタルエンジニアリング学科 講師)

【質疑】 (会場とのやりとりについて記述)0分
 ●デジタルエンジニアリングを活用した新たなプレス金型製作、およびサーボプレス機の導入について、企業をはじめとした参加者より関心を得た様子であった。
 ●非回転工具を用いた特徴ある加工法として、ヘール工具による加工への関心を得られた。
 ●企業からの参加者より、非回転工具の材種として単結晶ダイヤモンド素材を選定する理由についての質疑を受け、工具稜線の磨きにより刃先を鋭利に仕上げることでカッターマーク

報告者 ● 吉丸 将史 西日本工業大学 工学部 講師

連絡先 ● TEL: 093-563-3221 FAX: 093-563-3228

テーマ 医療分野(現場)で活躍するRT技術

開催日時 **10月21日金** ▶10:00～12:30

主 催 ふくおかロボット技術研究会、北九州ロボットフォーラム

会 場 学術情報センター遠隔講義室1

参加人数 **55名**

【参加内訳】 ●大学(学校)関係者／8名 ●企業／34名 ●行政／1名
●スタッフ／6名 ●講師／5名 ●その他／1名

《報告》プログラム [全体 2時間30分]

【講演1】 「感覚系の BMI (Brain-Machine interface) : 人工網膜の実用化を目指して」(45分)
不二門 尚 (大阪大学大学院医学系研究科・医用工学講座・感覚機能形成学(眼科兼担) 教授)

【講演2】 「脳で操るロボット～工学的視点からのブレインマシンインターフェース構築～」(45分)
田中 一男 (電気通信大学大学院情報理工学研究科知能機械工学専攻 教授)

【休憩】 (20分)

【講演3】 「機械電子研究所の福祉分野における開発事例紹介」(20分)
渡邊 恒弘 奥村 克博 (福岡県工業技術センター機械電子研究所 主任技師)

【講演4】 「市内発！医療・リハビリテーションロボットの開発事例のご紹介」(20分)
松崎 一成 (財団法人北九州産業学術推進機構 産学連携統括センターロボット開発支援部 事業化支援担当課長)

【質疑】 (会場とのやりとりについて記述)
 ●【講演1】
 (質問) 日中の屋外と夜の屋内のように明暗差が大きい場合でも有効かどうか。
 (回答) カメラによってコントラストがはっきり取れれば有効で、基本的に、カメラの性能に依存する。人間の目はダイナミックレンジも広く、非常に優れている。そのようなカメラが出れば幅広く対応可能。
 ●【講演2、3、4】 発表時間が延びたため質疑応答時間を取らない対応をした。

報告者 ● 奥村 克博 ふくおかロボット技術研究会(福岡県工業技術センター機械電子研究所)

連絡先 ● TEL: 093-691-0260 FAX: 093-691-0252

テーマ JASVA Day 九州 2011
環境の新時代を創出する省エネ半導体～パワーデバイスの無限大の可能性～

開催日時 **10月21日金** ▶13:00～16:30

主 催 社団法人日本半導体ベンチャー協会
(後援: 財団法人北九州産業学術推進機構、カーエレクトロニクスセンター、半導体技術センター)

会 場 研修室

参加人数 **80名**

【参加内訳】 ●大学(学校)関係者／8名 ●企業／61名
●行政／10名 ●研究機関／1名 ●その他／0名

《報告》プログラム [全体 3時間]

【講演1】 「東日本大震災がもたらした一大インパクト～省エネルギーこそキーワード」(30分)
泉谷 渉 (株式会社産業タイムズ社 代表取締役社長 兼 編集局長)

【講演2】 「パワー半導体の将来性と富士電機の事業展開」(40分)
藤平 龍彦 (富士電機株式会社 技術開発本部 電子デバイス研究所 所長)

【講演3】 「車載向けパワーエレクトロニクス製品の紐解きとデンソーの取り組み」(40分)
平野 尚彦 (株式会社デンソー IC技術3部 技術企画室 室長)

【講演4】 「省電力化に向けての東芝パワー半導体開発動向」(仮題)(40分)
山川 功 (株式会社東芝 ディスクリート応用技術技師長)

【講演5】 「今後10年間の半導体は More than Moore に注目」(40分)
南川 明 (IHSアイサプライ 副社長)

報告者 ● 釜原 純一 社団法人日本半導体ベンチャー協会 常務理事/事務局長

連絡先 ● TEL: 03-6379-6254 FAX: 03-6379-6256

●セミナー及び
シンポジウム

テーマ

医療技術への工学の応用 (第51回北九州医工学者会議)

開催日時

10月21日金 ▶13:30～15:30

主 催

北九州医工学者会議

会 場

中会議室1

参加人数

55名

【参加内訳】●大学(学校)関係者／22名 ●企業／19名
●行政／8名 ●研究機関／6名

《報告》プログラム [全体 3時間]

【講演1】「生体磁気と医療—リハビリテーション医学への期待—」(80分)

上野 照剛 (帝京大学福岡医療技術学部長、東京大学名誉教授、九州大学特任教授)

【講演2】「衝撃波と気泡をつかって人にやさしい医療技術をつくる」(60分)

玉川 雅章 (九州工業大学 生命体工学研究科 教授)

【質疑】 ●上野氏 20分、玉川氏 10分

報告者 ● 熊丸 雅也 北九州医工学者会議事務局(北九州市産業経済局学術振興課内)

連絡先 ● TEL: 093-582-2064 FAX: 093-591-2566

テーマ

腸内環境改善と健康づくり

開催日時

10月21日金 ▶16:00～17:30

主 催

産業医科大学産業生態科学研究所健康予防食科学研究室

会 場

中会議室1

参加人数

62名

【参加内訳】●大学(学校)関係者／40名 ●企業／12名
●行政／4名 ●研究機関／2名 ●その他／4名

《報告》プログラム [全体 1時間30分]

【講演1】「健康づくりと地域活性」(40分)

徳井 教孝 (産業医科大学産業生態科学研究所健康予防食科学研究室准教授)

【講演2】「腸内環境改善と食育」(40分)

三成 由美 (中村学園大学薬膳科学研究所教授)

【総合討論】産業医科大学健康予防食科学研究室の徳井教孝准教授が司会をつとめ、地域活性化について総合討論を行った。(10分)

【質疑】 ●地域で腸内環境を焦点にあてて地域活性をやることは大変ユニークだという意見がでた。

報告者 ● 徳井 教孝 産業医科大学健康予防食科学研究室 准教授

連絡先 ● TEL: 093-691-7456 FAX: 093-603-0158

● シンポジウム

テーマ

LED 照明の安全規格

開催日時

10月21日金 ▶13:00～15:00

主 催

福岡県工業技術センター機械電子研究所、
ひびきの LED アプリケーション創出協議会

会 場

中会議室2

参加人数

57名

【参加内訳】●大学(学校)関係者／1名 ●企業／43名
●行政／6名 ●研究機関／4名 ●その他／3名

《報告》プログラム [全体 2時間]

【講演1】「LED 照明の安全規格 (電気用品安全法の概略)」(100分)

渡邊 靖之 (一般財団法人 電気安全環境研究所 横浜事業所 照明グループ グループマネージャー)

【質疑】 (20分)

Q 1 : LED照明機器のフリッカは具体的にどのように測定するのか?

A 1 : フリッカ測定法はまだ電安法で規定されていないが照度または入力電圧による測定法などが考えられる。

Q 2 : LED照明機器の規制化により効率の低下などが懸念される。

A 2 : 電安法で要求されるのは「安全性」であり「効率」ではない。

Q 3 : LED照明機器の電磁ノイズ規制はどうなるのか?

A 3 : 電安法の「照明機器」の規制が適用されると思われる。

Q 4 : LED照明機器の規制が施行された場合、未販売の製品も規制の対象となるのか?

A 4 : 規制開始後に出荷される製品が対象となる。出荷済みの製品に対して遡及して適用されることはない。

報告者 ● 西村 圭一 福岡県工業技術センター機械電子研究所 電子技術課

連絡先 ● TEL: 093-691-0260 FAX: 093-691-0252

テーマ

次世代自動車向け表面処理技術の最前線

開催日時 10月21日(金) ▶15:15～17:30

主催 福岡県工業技術センター機械電子研究所、
福岡県工業技術センタークラブ機械電子技術部会

会場 中会議室2

参加人数

63名

【参加内訳】 ●大学(学校)関係者／2名 ●企業／47名

●行政／14名

《報告》プログラム [全体 2時間→5分]

【講演1】 「次世代自動車向け表面処理技術の最前線」(120分)
別所 毅 (トヨタ自動車株式会社 東富士研究所 先端材料技術部 主査、工学博士)

【質疑】 (会場とのやりとりについて記述)0分

●車載半導体の今後の方向性について質問があった。

報告者 ● 古賀 弘毅 福岡県工業技術センター機械電子研究所 材料技術課 研究員
連絡先 ● TEL: 093-691-0260 FAX: 093-691-0252

テーマ

消防活動の安全を支える技術

開催日時 10月21日(金) ▶13:00～15:00

主催 北九州市立大学 環境・消防技術開発センター

会場 学術情報センター遠隔講義室1

参加人数

65名

【参加内訳】 ●大学(学校)関係者／28名 ●消防関係／37名

《報告》プログラム [全体 2時間]

【講演1】 「防災に生かす研究者の直感と実務者の経験」(40分)
小西 忠司 (大分工業高等専門学校 教授)【講演2】 「安全な消火活動のためのショアリング技術の開発」(30分)
城戸 將江 (北九州市立大学 講師)【講演3】 「地域の力を活かす防災対策と訓練」(30分)
加藤 尊秋 (北九州市立大学 准教授)

【質疑】 (会場とのやりとりについて記述)0分

●大学関係者より、ボート火災発生メカニズムから得られた知見を、普段の生活にどのように活かすべきかという質問があった。

●企業より、ショアリング技術の安全性の高さを更に追求してほしいとの意見があった。

●一般市民の参加者より、消防団への認識が男女および地域差でかなりの差があることから、どのように意識を統一していくべきか、との質問があった。

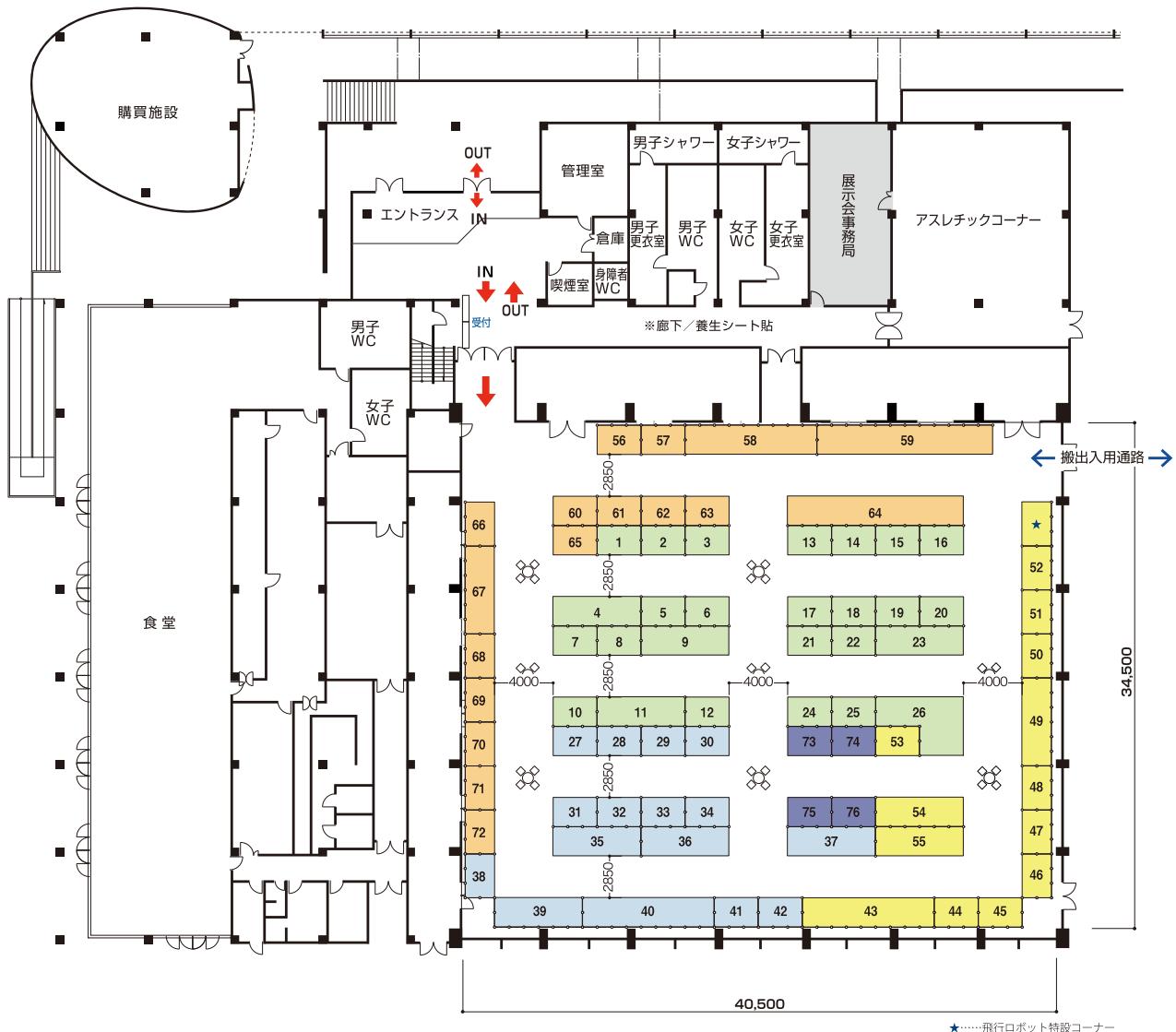
報告者 ● 上江洲 一也 北九州市立大学 環境生命工学科 教授

連絡先 ● TEL: 093-695-3288 FAX: 093-695-3368

●セミナー及び
シンポジウム

結果報告 展示会

【展示会場案内図】●会場：北九州学術研究都市 体育館



小間番号	出展者名	出品物
10	三菱化学株式会社 黒崎事業所	新規バイオエンブラー“デュラビオ” “デュラビオ”は、植物由来の原料を用いた新しいポリカーボネート樹脂である。 デュラビオの特徴は透明性、耐光性、耐熱性、高表面硬度が優れている事である。
11	株式会社昭和テックス	人と環境にやさしく 安全安心を未来へつなぐ ◆レールボンド-耐振動性を優れたCd.Pbフリーの低温溶融ハンダ材と溶着工法 ◆水素フースター-燃費を改善し、NOx PMを削減するディーゼル機関の補助燃料装置
12	クランフィールド大学北九州共同研究オフィス	クランフィールド大学北九州共同研究オフィスの研究活動の紹介 現在クランフィールド大学が取り組んでいる、北九州学術研究都市の連携大学および北九州地区の企業との共同研究について、パネル展示で紹介した。
13	産業医科大学 医学部リハビリテーション医学講座	下肢麻痺者に対する立脚期制御膝継手システムの開発 長下肢装具での歩行は、不自然になりやすい。足裏センサからの情報で、膝継手を脚の振り出し時に遊動、荷重時に固定とする小型、軽量の膝継手制御システムを開発した。
14	産業医科大学産業生態科学研究所 産業保健管理学研究室	騒音職場での聴覚保護 騒音職場で、聴力保護の対策をせずに騒音に曝露されると騒音性難聴になる。これを防ぐための、現場で可能な教育・訓練の有効性を、耳栓のCT画像解析とともに紹介した。
15	九州歯科大学口腔診断学講座画像診断学分野	歯科用インプラントを安全に埋入するための画像解析ソフトウェア 歯科用インプラントの術前CT検査に応用可能な画像解析ソフトウェアの試作品を提示し、実際に使用してもらうことで操作性の問題点を見出そうという試みである。
16	福岡大学北九州産学連携推進室	福岡大学の環境研究と产学共同研究 汚染土壤 不法投棄 不適正処分場の再生等環境修復技術、廃棄物の資源化技術研究の紹介および産学官連携ビジネス事例紹介を行った。
17	産業医科大学産業生態科学研究所 健康予防食科学研究室	腸内環境改善と健康づくり 腸内環境が健康増進に重要な役割を果たしていることが、最近の様々な研究で明らかになっている。地産の生産物を活用し腸内細菌叢の改善を目指した商品を展示了。
18	産業医科大学产学連携・知的財産本部	医療ニーズ事業化のための产学連携 地域の企業・大学等との医工連携により医療・健康用機器の開発に向けて様々な取組みを進めている。あらたな产学連携を推し進めるために、これまでの取り組み事例を紹介した。
19	創造企画合同会社	流水利用型「マイクロ水力発電装置」及び特許取得技術等の紹介 脱原発の対応技術として、弊社の流水利用型「マイクロ水力発電装置」(農業用水路等活用)を主体とした再生可能エネルギー利用技術、及び、弊社の特許取得技術等の紹介。
20	日本ナショナルインスツルメンツ株式会社	LabVIEWで実現するスマートコミュニティ エネルギーの見える化、広域電力監視、配電の自動化やEMSコントローラなどスマートエネルギー分野の共同研究開発を短期間で実現させる設計開発プラットフォームを紹介。
21	北九州市立大学環境・消防技術開発センター	「環境と消防」技術の研究開発 世界に先駆けて開発した環境配慮型泡消火剤およびその専用資機材を中心として、消火活動を効率化する技術および戦術を加えた「北九州市型消火システム」について紹介した。
22	北九州市立大学国際環境工学部 上江洲・森田・河野研究室	生物の機能・生体材料を活用したバイオセンシング技術の開発 生物の持つ機能を活用し、有機・無機材料との複合化により、環境中の汚染物質、または有用物質を検出するセンシングシステムを創製しており、要素技術について紹介した。
23	財団法人福岡県環境保全公社 リサイクル総合研究センター	产学官民との共同研究により開発したリサイクル製品やリサイクルシステムの紹介 紙おむつのリサイクルシステムを始め、产学官民の共同研究により開発したリサイクル製品やシステムを紹介。
24	シャボン玉石けん株式会社	石けんリサーチセンターと感染症対策研究センターの紹介 石けんの特徴や優位性について研究する「石けんリサーチセンター」と、医療現場で無添加石けんによる衛生管理を提案する「感染症対策研究センター」の取り組みを紹介した。
25	北九州市立大学国際環境工学部 建築・都市低炭素化技術開発センター	低炭素化技術による環境未来都市の実現 2011年4月に新設。建築・都市における素材・建築単体・街区・都市スケール及びエネルギー・資源の低炭素化技術開発や設計手法による環境にやさしいまちづくりの提案。
26	北九州市環境局	環境モデル都市・北九州市の挑戦 「北九州スマートコミュニティ創造事業」をはじめとした環境モデル都市・北九州市の事業を紹介。また、今年決定した環境マスコットキャラクター「てぃーん」も登場。
半導体・情報アプリケーション関連 16 小間		
27	ヒロコン株式会社	スマートフォン・携帯等モバイル端末及びパソコンを使用した電気製品の稼動状態のモニタリング 複数の電気製品の電源供給・消費電力等をパソコンやスマートフォン携帯電話等の画面に一括表示し、各電気製品の状態を、どこでもいつでも監視できるモニタリングシステム。
28	株式会社ヴィンテージ・プロダクションズ＆コンサルティング	成年後見業務支援システム「みるど」 成年後見業務システム「みるど」は「成年後見制度」の業務特化システム。煩雑な成年後見業務(財産管理や裁判所への報告書作成等)を一元管理し、業務効率化を可能にする。
29	大日本印刷株式会社 電子モジュール開発センター	画像認識ソリューション 動いている人などを検知する機能(動体検知・追跡)を持つ自動監視向けソフトウェアライブラリを紹介する。また、本ライブラリを使用したアプリケーション例を展示した。
30	株式会社シキノハイテック	市場のニーズを形に【SMU(-PXi) Source Measure UNIT】 3U/25LOTのPXI moduleに8ch収容された高精度ソース・メジャユニット。
31	北京大学・早稲田大学	北京大学・早稲田大学海外連携プロジェクト 北京大学情報科学技術学院董紅林研究室と早稲田大学大学院情報生産システム研究科鎌田研究室によるコンピュータビジョン関連の海外連携プロジェクトの研究内容の紹介を行った。
32	早稲田大学大学院 情報生産システム研究科 生産システム分野	生産システム分野の研究紹介 情報生産システム研究科の生産システム分野で行われている研究の一部として、MEMS技術を応用したセンサや、パソコンのBTOシステムをバッフルで紹介した。
33	早稲田大学大学院 情報生産システム研究科 システムLSI分野	早稲田大学システムLSI産学連携研究成果 地域イノベーション戦略支援プログラム、ICTアプリケーションLSIと並びにミクストシグナルLSIとその先端的設計技術の研究開発などに関する研究成果を展示了。
34	近畿大学産業理工学部空間デザイン研究室	家具のデザインと製作 大川市のナカヤマ木工と共に製作したグッドデザイン賞を受賞している2つの家具、スタッキングデスクグメントの実物およびソファ「ホットドッグ」のバッフルを展示了。
35	財団法人北九州産業学術推進機構 半導体技術センター	地域に貢献するLEDアプリケーション創出支援及び半導体産業振興 新応用分野事業化に向けた研究開発支援、情報発信、マーケティング等、ひびきのLEDアプリケーション創出協議会の取り組みや、半導体・エレクトロニクス産業振興事業を紹介。
36.40	ひびきのLEDアプリケーション創出協議会	ここまで来たLEDアプリケーション新応用分野 LEDの波長特性を活用し生化反応の制御による鮮度保持や植物工場への応用、及び高効率可視光特性を活かす為の高放熱設計や高効率電源の開発など応用研究の最前線を紹介。
37	吉川工業株式会社 株式会社吉川システム 吉川アーリエフシステム株式会社	安全・安心のRFIDトータルソリューション 安全・安心のRFIDソリューション①入退門禁管理②入退室/出退勤③トライポットゲート立入管理 ④作業者接近検知⑤ワイヤレス給電(伝送距離10m)⑥LED照明制御
38.39	株式会社東芝 ゼミコンダクター& ストレージ社 北九州工場	社会システムに向けた新照明の展開と最先端半導体技術 北九州工場で製造する光半導体(LED)製品紹介と新照明の展示及び東芝の注力製品であるSSD(HDDとのデータ処理速度と消費電力比較)の紹介。
41	株式会社プラテック	PC・携帯・スマートフォン対応通販サイト構築支援サービス「BRAEC(ブレイク)」の紹介 魅力的、効果的な商品PRによって、人が集まり、商品が売れるPC・携帯・スマートフォン対応のネット通販サイトを低成本で運営できるサービスについて紹介した。
42	株式会社アドバンテスト	2チャンネル位相同期によるペクトル&スペクトラム信号解析 2CH位相同期測定によるペクトル測定機能にて、時間・振幅・位相・周波数軸上で比較測定／ペクトル演算が可能なクロス・ドメイン・アナライザ U3800シリーズを展示了。
自動車・ロボット関連 13 小間		
43	財団法人北九州産業学術推進機構 カーレクトロニクスセンター	カーレクトロニクスセンターの事業紹介 カーレクトロニクスセンターが取り組んでいる事業として产学連携研究開発事業の成果と各種研究会活動の内容を資料と映像で紹介した。
44	九州工業大学大学院 生命体工学研究科 石井研究室	フィールドロボットの研究開発 水中ロボットによる海底観測や船底清掃、不整地走行ロボットによる屋外走行、管内環境調査ロボット、ロボカップ等の全方位移動ロボット等の研究成果を紹介した。

小間番号	出展者名	出品物
45	RoboPlus ひびきの株式会社	メカトロニクス製品の設計開発 小型全方位ロボット、水中用ラスタ、水中環境観測ロボット、船底清掃用水中ロボット、マニピュレータ等を開発している。これら製品に関する技術を紹介した。
46	株式会社安川電機	4自由度θΖユニット 当社が開発した「4自由度θΖユニット」は、精密な位置決めが要求される半導体、各種デバイスの製造装置・検査装置への適用が可能な精密位置決めステージである。
47	長菱エンジニアリング株式会社	確かな技術と品質で、ニーズに応えるものづくり 多層盛接ロボット「松」は、①小型軽量で移動が簡単②有能なセンシング機能をもち、操作も簡単③鉄工所、造船所、橋梁、タワー工事など800台超の納入実績。
48	北九州ロボットフォーラム 財団法人北九州産業学術推進機構	北九州ロボットフォーラムの紹介 ■北九州ロボットフォーラムの概要・活動のパネル展示およびビデオによる紹介 ■「市内発ロボット創生事業」等の紹介 ■飛行ロボットコーナーを設置
49	北九州高専 久池井研究室	ロボット制御技術を活用した次世代モジュール型システム 医療向け安全安心システム、新しいロボット・ゲートシステム、遠隔育成管理できる次世代農業用ハウスシステム、3D機械モデルのシミュレーションシステムなどを紹介した。
50	北九州高専 滝本研究室	無線ネットワーク組込み制御モジュールの紹介 ネットワーク組込み制御モジュールおよびその応用例である4ロータヘリコプターと遠隔制御・消費エネルギー監視を実現するインテリジェンタップを展示了。
51	北九州市立大学国際環境工学部 山本郁夫研究室	陸・海・空・宇宙・医療★未来に飛び出す極限環境ロボット技術★ 船ロボット・エイロロボット・シノメサカタザメロボット・医療用上肢リハビリロボット・外科手術用鉗子ロボット・特殊空撮用ロボット等について展示了。
52	株式会社ふるさとカンパニー	飛行船型バルーンを使った空撮システム 飛行船型バルーンを使った安全性の高いシステムで、今までの空撮技術では撮ることができなかつた高度300メートル以下からの解像度の高い写真の提供が可能となった。
53	早稲田大学大学院情報生産システム研究科 情報アーキテクチャ分野	情報アーキテクチャ分野の各研究室の紹介とロボットの展示 情報アーキテクチャ分野の各研究室を紹介した。また、ステップ・イン・インターフェースを利用したタッチゲーム・ロボットを展示了。
54	西日本工業大学	プレス加工新技術の提案 ①プレスの上下運動を利用して発生した高圧エアによる金型のかす落とし技術②しわ押さえ力の調整による絞り加工の成形性向上の提案③実験用金型の試作機④他の技術。
55	九州工業大学 森江・神酒・石川研究室	車載システム・エンタテインメントロボットのための画像処理技術 車載システムやロボットへの適用を目指し、画像を用いた歩行者の検出システム、人の顔・身振り認識システム、障害物回避を含めた自律ロボット行動制御の展示・デモを行った。
産学連携支援関連 18 小間		
56	財団法人福岡県産業・科学技術振興財団(ふくおかIST)	ふくおかISTの産学官連携事業の紹介 IST産学官事業および文部科学省・地域イノベーションクラスタープログラム都市エリア型「ふくおか筑紫エリア」事業などの概要と成果事例を紹介した。
57	財団法人福岡県産業・科学技術振興財団(ふくおかIST)	シリコンシーベルト福岡構想の拠点施設の紹介 福岡県のシリコンシーベルト福岡構想の拠点①先端半導体設計センター（福岡システムLSI総合開発センター）②三次元半導体研究センター③社会システム実証センターの紹介
58	独立行政法人産業技術総合研究所九州センター	地域中小企業とともに歩く産総研 太陽電池モジュールの耐候性評価技術開発／ケイ酸チタニウム系化合物で暗所でも大きな防かび効果／土で有害物質を吸着・分解するシステム／ナノ粒子開発システム
59	九州職業能力開発大学校建築系 岩下研究室	「環境未来都市 北九州 2050」 これから長く続く人口オーナー社会の中で衰退傾向にある地方都市の自立住構想はいかにあらべきかを北九州のケーススタディの中で2050年に向けて系統的にその未来都市の姿の提案を行った。
59	九州職業能力開発大学校生産システム技術系	「開発課題における各種システム、各種ロボットの開発」 機械電子系情報系の要素を取り入れた学校P4用装置①バーチャルドライビングシステム②名刺製作装置、わずか50秒程度で温かいコーヒーが飲めるH急速缶コーヒー・温水器(Hot Hurry Hotter)、他製作ロボット等の紹介。
60	野村證券株式会社	野村の産学連携支援体制の紹介 野村グループとしての産学連携の支援体制と、北九州地域に根差した証券会社としての活動の紹介。
61	福岡ひびき信用金庫	地域金融機関と地域ファンドのコラボレーション 地域金融機関としての「福岡ひびき信用金庫」(ひびしん)、ベンチャー企業の企業価値の向上を支援する「ひびしんキャピタル㈱」、信用金庫のセントラルバンク(信金中央金庫)の活動内容を紹介。
62	株式会社福岡銀行	福岡銀行グループでの産学官連携支援活動の紹介 「福岡銀行」及び関連グループ会社である「FGビジネスコンサルティング」の産学官連携事業に関する活動内容を紹介した。
63	株式会社西日本シティ銀行	西日本シティ銀行の環境金融融資について 省エネルギー等の環境対策を行うお客様へ当行の環境関連融資商品である「NCB環境応援資金」「環境私募債」「成長企業応援ファンド」等の紹介を行った。
64	福岡県工業技術センター機械電子研究所 福岡県工業技術センタークラブ機械電子技術部会	中小企業の競争力アップに 産業技術サポートー「機械電子研究所」を! 福岡県工業技術センタークラブ機械電子技術部会は、会員企業と機電研との共創から、新製品・新技術の開発を推進。小間では共同開発成果及び機電研提供支援サービスの紹介。
65	北九州イノベーションギャラリー	ものづくり啓発の活動紹介 日本の近代製銅発祥の地、八幡東区東田に立地する当館の企画展や年間を通して行っている講座、各種イベント、図書、資料収集、調査研究事業など幅広い活動を映像を交え紹介した。
66	日本経済新聞社	日経TEST～ビジネスパーソンの新たな能力判定尺度～ 生きた経験を題材にする「日経TEST」は、経営知力から問題解決能力まで、客観的に判定できるテスト。今回、お試し10問テストを無料で行った。
67	財団法人北九州産業学術推進機構 産学連携部 知的クラスター担当課	地域イノベーション戦略支援プログラム(グローバル型) 世界の先端的LSI開発拠点化の実現を目指して福岡・北九州・飯塚地域で展開する「地域イノベーション戦略支援プログラム」について北九州地域の取り組みを中心で紹介した。
68	財団法人北九州産業学術推進機構(北九州TLO)	北九州TLOの技術移転活動 北九州TLOは、北九州地域の大学等から創出された技術シーズを権利化し民間企業に移転する活動を行っている。実際に技術移転活動を行っているシーズを紹介した。
69	財団法人北九州産業学術推進機構 北九州知的所有権センター	知財総合支援窓口「パテント・エントラント福岡」 知的財産権に関する悩みや課題の解決を支援する知財総合支援窓口「パテント・エントラント福岡」の紹介。
70	九州経済産業局 特許室 / 九州知的財産戦略センター	知的財産権を軸にした支援制度などのご案内 以下の案内書・パンフレットをベースにて配布(無料)知的財産権制度入門 知って得する知的財産権戦略支援策
71	早稲田大学大学院情報生産システム研究科	アジア太平洋地域における「最先端の知の共創」 情報生産システム研究科の幅広い研究活動や地域に密着した実践的な研究成果や業績、ならびに世界に開かれた多分野にわたる特徴ある教育体制などを紹介する。
72	北九州市立大学地域産業支援センター	北九州市立大学の地域産学連携窓口 北九州市立大学における産学連携及び地域貢献の中核組織である地域産業支援センターの組織活動実績を紹介した。
水処理・水ビジネス関連 4 小間		
73	北九州市立大学戦略的水・資源循環リーダー育成事業	発展途上国との連携研究と教育：水・廃棄物処理 2009年度開始の本事業のあゆみ、現状と展望を紹介する①ベトナムや中国の研究機関との協力②アジア・アフリカ諸国など出身の大学院生を環境リーダーとして育成。
74	北九州市立大学国際環境工学部 楠田・門上・石川・安井4研究室(水環境分野)	水環境分野における諸研究 ①農工業・日常生活・生態系の水資源分配問題、②微量汚染物質の化学分析、③物理化学的排水・用水処理のプロセス開発、④高効率の環境保全システム開発等各教授の講研究を紹介した。
75	アジア低炭素化センター	低炭素化技術の移転 北九州市は「世界の環境首都」及び「アジアの技術首都」を都市ブランドとして構築することを目指しており、アジア地域の低炭素化を通じて、地域経済の活性化を図っていく行く。
76	株式会社セパシグマ	セパシグマの新型水処理技術 「孔拡散膜分離」水や粒子の熱運動を最大限活用した省エネルギー型水処理技術。 「流動分離技術」汚染粒子を流路の中央に集めて分離する目詰まりしない膜分離。

結果報告 見学ツアー

WATER TOUR(北九州発、水“新”発見ツアー)

北九州市が世界に誇る水処理・水循環システムについて、実際に施設見学するツアーを実施した。

《日時》**10月20日(木)・9:00~12:15**

《コース》ウォータープラザ北九州→日明浄化センター→穴生浄水所

ラボ見学ツアー

早稲田大学 大学院情報生産システム研究科

コース1 《日時》**10月20日(木)・10:00~11:00**

《コース》情報アーキテクチャ分野コース

藤村研究室(生産スケジューリング)→レバージュ研究室(自然言語処理)

コース2 《日時》**10月21日(金)・14:00~15:30**

《コース》生産システム分野コース

大貝研究室

自動車の自律走行の研究について、ロボカーや電気自動車を用いて紹介した。また、配管検査ロボットや橋梁診断システムにおける新しい研究について紹介した。

北九州市立大学 国際環境工学部・大学院国際環境工学研究科

コース1 《日時》**10月20日(木)・16:00~17:00**

《コース》水循環・水処理ツアー

安井研究室(水の生物処理)→石川研究室(水の物理化学処理)→門上研究室(水の微量化学分析)→楠田研究室(水資源の管理)

コース2 《日時》**10月21日(金)・10:10~11:30**

《コース》“ものづくり”ツアー

ゴドレール研究室(ロボットハンド及び新型アクチュエータの研究)→白石研究室(省エネで快適な室内空間を目指す“空調性能試験室”)→泉、吉山研究室(エンジン、燃料電池に関する研究紹介)

九州工業大学 大学院生命体工学研究科

コース1 《日時》**10月21日(金)・10:30~12:00**

《コース》脳情報専攻ツアー

我妻研究室(脳の情報処理を模した知的制御)→花沢研究室(視覚心理実験と並列計算を用いた画像処理)→堀尾研究室(ジェスチャー識別システム)

コース2 《日時》**10月21日(金)・13:00~14:30**

《コース》生体機能専攻ツアー

宮崎研究室(身体の修復を助ける医用材料の開発)→春山研究室(分子機能で界面機能を創る)→早瀬研究室(塗布で作製できる太陽電池)

学研都市見学ツアー

学研都市における、半導体製造関連分野の研究開発を行う施設やマルチメディアステーションである学術情報センターはじめ、環境エネルギーセンターなど、学研都市特有の施設を紹介した。

《日時》**10月20日(木)・10:00~12:00**

《コース予定》①学研概要説明(10分)→②共同開発センター(ケミカルプロセス室等)(30分)→③学術情報センター(30分)→④環境エネルギーセンター(30分)

結果報告 実証実験

フェア会場にて公開実験実施!!

1 「心肺情報等をリアルタイムに計測する 小型健康管理システムの実証実験」

【内 容】 人体の生体情報や動きを Bluetooth 無線でパソコンにリアルタイムで伝送し、その情報を基に被験者の運動や体力を解析し、評価結果を提供した。

【日 時】 **10月19日(水)～21日(金)** ●13:00～17:00

【場 所】 体育館入口

【主 催】 株式会社キットヒット、九州工業大学、株式会社ケアテックサービス

2 「竹や土など100%自然素材を用いた透水性舗装材による 健康・低炭素街区形成のための実証実験」

【内 容】 優れた透水性、路面温度上昇の抑制や雑草の発生を抑制するなどの効果があり、竹や土など100%自然素材でできた舗装材の敷設により、景観への適応性および地域の環境や人の健康にもたらす効果や価値を実証した。



【日 程】 **10月19日(水)～21日(金)**

【場 所】 産学連携センター前

【主 催】 日本乾溜工業株式会社、北九州市立大学国際環境工学部建築・都市低炭素化技術開発センター

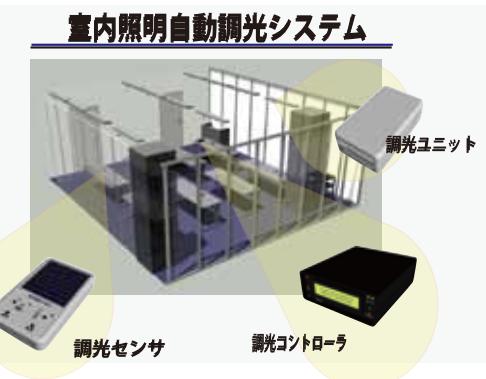
3 「無線ネットワークを用いた室内照明(LED)の 節電制御システムの実証実験」

【内 容】 無線通信技術を用いてオフィスの天井灯をネットワークする事により、外光の明るさを加味しつつ、執務机の作業面の明るさを適正に維持するよう照明個別に調光制御し、照明設備の消費電力を削減する実験を行った。

【日 程】 **10月19日(水)～21日(金)**

【場 所】 産学連携センター 1F
展示ルーム奥

【主 催】 博通テクノロジー株式会社、早稲田大学 大貝研究室、
財団法人北九州産業学術推進機構



同時開催

北京大学セミナー

《日時》10月19日(水)・15:00～17:30

《会場》会議場 《主催》北京大学・早稲田大学

《プログラム》

- 【講演1】〈テーマ〉「北京大学情報科学技術学院 (School of Electronics Engineering and Computer Science) の紹介」
〈講師〉北京大学情報科学技術学院 学院長 Hong MEI 氏
- 【講演2】〈テーマ〉「北京大学情報科学技術学院の産学連携について」
〈講師〉北京大学情報科学技術学院 副院長 Hongbin ZHA 氏
- 【講演3】〈テーマ〉「北京大学情報科学技術学院の国際連携について」
〈講師〉北京大学情報科学技術学院 副院長 Ru HUANG 氏
- 【講演4】〈テーマ〉「北京大学情報科学技術学院の大学院教育について」
〈講師〉北京大学情報科学技術学院 主任教授 Kunqing XIE 氏

九州工業大学大学院生命体工学研究科 創立10周年記念シンポジウム

ロボットが拓く21世紀の環境にやさしい社会

《日時》10月20日(木)・13:00～17:00

《会場》会議場 《主催》九州工業大学

《プログラム》

【主催者挨拶】九州工業大学 学長 松永 守央 氏

第1部「ロボットが拓く21世紀の社会」

- 【講演1】〈テーマ〉「鉄腕アトムは深い海の底から生まれる」
〈講師〉東京大学生産技術研究所 海中工学国際研究センター長 教授 浦 環 氏
- 【講演2】〈テーマ〉「企業におけるロボット開発」
〈講師〉株式会社安川電機技術開発本部 開発研究所ロボット技術開発グループ長 野瀬 由喜男 氏
- 【講演3】〈テーマ〉「ロボットと歩む共生マネジメント」
〈講師〉九州工業大学大学院生命体工学研究科 教授 ジアン ドゥーソップ 氏
【パネルディスカッション】
東京大学生産技術研究所 海中工学国際研究センター センター長 教授 浦 環 氏
株式会社安川電機技術開発本部 開発研究所 野瀬 由喜男 氏
ロボット技術開発グループ グループ長 野瀬 由喜男 氏
九州工業大学大学院生命体工学研究科 教授 ジアン ドゥーソップ 氏
九州工業大学大学院生命体工学研究科 教授 白井 義人 氏

第2部「環境にやさしい社会が創る輝かしい21世紀」

【講演】〈テーマ〉「農耕の工業社会の建設と若い人の期待」

〈講師〉直燃バイオマス研究会 顧問 長田 純夫 氏

【研究成果報告】

- 「マレーシア生物多様性と持続可能な新産業」
九州工業大学大学院生命体工学研究科 教授 白井 義人 氏
- 「グリーンイノベーションとリサイクル社会」
九州工業大学エコタウン実証研究センター 教授 西田 治男 氏
- 「環境バイオテクノロジーの将来」
九州工業大学大学院生命体工学研究科 准教授 前田 繁成 氏
- 【対談】「環境首都北九州市の21世紀」
福岡大学名誉教授 財団法人福岡県環境保全公社リサイクル総合研究センター センター長 花嶋 正孝 氏
九州工业大学大学院生命体工学研究科 教授 白井 義人 氏

International Workshop on Target Recognition and Tracking (IWTRT2011)

(ターゲット認識とトラッキングに関する国際ワークショップ)

《日時》10月20日(木)・10:00～17:00

《会場》早稲田大学大学院情報生産システム
研究科棟講義室

《主催》早稲田大学・北京大学

北九州市立大学技術開発センター群セミナー

《日時》10月21日(金)・10:00～17:30

- ①北九州発の新たなバイオマス資源利活用の新展開
《会場》産学連携センター 《主催》バイオマス研究センター
- ②消防活動の安全を支える技術
《会場》学術情報センター 《主催》環境・消防技術開発センター
※①②の内容は表面参照
- ③震災後の低炭素化社会構築への展望(北九州環境首都への挑戦)
《会場》会議場 《主催》建築・都市低炭素化技術開発センター

《プログラム》

- 【開会挨拶】北九州市立大学学長 近藤 健明 氏
【趣旨説明】北九州市立大学国際環境工学部 建築・都市低炭素化技術開発センター長 黒木 莊一郎 氏
【基調講演】〈テーマ〉「急ごう！原発を凌ぐゼロカーボン社会」
〈講師〉建築家、工学院大学 教授 中村 勉 氏
【講演1】〈テーマ〉「ドイツを中心とした環境モデル都市の最新事例調査」
〈講師〉北九州市立大学国際環境工学部建築デザイン学科 教授 デワンカーバート 氏
【講演2】〈テーマ〉「城野地区ゼロカーボン街区形成への課題」
〈講師〉北九州市立大学都市政策研究所 教授 伊藤 解子 氏
【講演3】〈テーマ〉「北九州スマートコミュニティ創造事業に関する技術開発の研究事例紹介」
〈講師〉北九州市立大学国際環境工学部建築デザイン学科 講師 葛 隆生 氏
【パネルディスカッション】
〈司会〉北九州市立大学国際環境工学部建築デザイン学科 教授 福田 展淳 氏
【閉会挨拶】北九州市立大学国際環境工学部長 龍 有二 氏

国立高専攻科学生研究発表会及び 研究シーズ発表会

《日時》10月21日(金)・10:00～14:00

《会場》イベントホール、会議場

《主催》北九州工業高等専門学校

《プログラム》学生研究発表会

北九州高専の専攻科生1年生および2年生の成果発表

研究シーズ発表会

北九州高専の研究シーズを公開するために、若手教員などによる研究シーズ発表会

【挨拶】北九州工業高等専門学校 地域共同テクノセンター長 浜松 弘 教授

- 【研究発表1】〈テーマ〉「省エネルギー制御技術を用いたインテリジェント電源タップの開発」
北九州工業高等専門学校 機械工学科 滝本 隆 講師
【研究発表2】〈テーマ〉「大気圧マイクロプラズマジェットによるラジカル源」
北九州工業高等専門学校 電気電子工学科 福澤 剛 准教授
【研究発表3】〈テーマ〉「主觀・意識のモデル化と感性情報処理」
北九州工業高等専門学校 電子制御工学科 白濱 成希 准教授
【研究発表4】〈テーマ〉「蛇型ロボットの研究開発及びその応用」
北九州工業高等専門学校 制御情報工学科 松尾 寛之 助教
【研究発表5】〈テーマ〉「先端的有機太陽電池の研究開発」
北九州工業高等専門学校 物質化学工学科 山根 大和 教授

● 同時開催

結果報告 広報・宣伝活動

■ポスター



■ホームページ

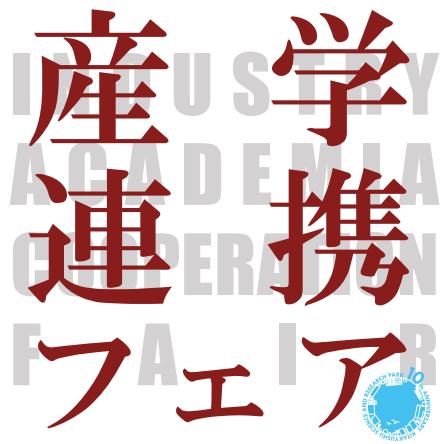


■ダイレクトメール



長3封筒





北九州学術研究都市10周年記念
知と技術の融合
"新"社会システムへの挑戦
九州から世界へ

北九州学術研究都市産学連携フェア
実行委員会

九州工業大学・北九州市立大学・早稲田大学・九州共立大学・福岡大学・近畿大学・西日本工業大学・九州歯科大学・産業医科大学・北九州工業高等専門学校・北九州商工会議所・財団法人国際東アジア研究センター・公益財団法人北九州活性化協議会・財団法人九州ヒューマンメディア創造センター・独立行政法人産業技術総合研究所・福岡県・福岡県工業技術センター機械電子研究所・北九州市